ライオン誌(毎月20日発行)第56巻第5号 2013年10月20日発行 昭和33年12月19日付第3種郵便物認可

IN JAPAN Official Publication of Lions Clubs International

WWW.THELION-MAG.JP NOVEMBER 2013 11

今月のTHEME

地域の魅力発信

ライオン誌2014年2月号のTHEME（特集）は、「夢を追いかけよう」。バリー・J・パーマー国際会長のテーマにちなんだこの特集は、将来を担う若手会員が夢を語り合う若手会員フォーラム（前号で参加者募集）の模様をリポートする他、「夢をかなえたクラブ」「夢を追いかけているクラブ」のストーリーを紹介する企画です。アクティビティに関する夢、会員増強の夢など、あなたのクラブがかなえた夢、または今追いかけている夢に関する原稿をまとめ、お寄せください。

【募集要項】

募集内容：クラブがどのような夢を抱き、それをどのようにしてかなえたか、あるいはかなえようとしているかについて、1,600字程度の原稿をお書きください。もし原稿にまとめるのが難しい場合には、個条書きでお送り頂いても結構です。

応募方法：執筆者氏名、クラブ名、連絡先を明記の上、「夢を追いかけよう」係宛て、Eメール、FAXまたは郵送でお送りください。

■Eメール：edit@thelion.jp　■FAX：03-3546-2630
■住所：〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階
ライオン誌日本語版事務所「夢を追いかけよう」係

応募締切：2013年11月25日（月）

LION MAGAZINE IN JAPAN
November 2013, Vol.56 No.5

We Serve CONTENTS

■2013年11月号
表紙
佐賀県武雄市
御船山楽園
写真／鈴木秀晃

本誌は環境に配慮したFSC®認証紙を使用しています。

A Message From Our President

Barry J. Palmer
Your Lions Clubs
International President

大きな夢によって
大きなインパクトを

2000年にオーストラリアのシドニーでオリンピックが行われた時、私は光栄にもパラリンピックの開催を手伝うことが出来ました。その開会式を生涯忘れることはないでしょう。歩くことの出来ない参加者は、その手で、堂々とトラックを行進していました。*何ものも、その力強い魂を阻むことは出来ません！*　しかしそれは、競技で発揮された妙技のウォーミングアップに過ぎませんでした。彼らは身体的な制約をものともせず、目を見張るような情熱と努力によって、すばらしい技能、スピード、力強さで走り、飛び、泳いでいました。

私は今年度、ライオンズ・メンバーとクラブに「**夢を追いかけよう**」と呼び掛けています。パラリンピックの選手たちは、私たちが普段どれほど自分の能力を過小評価して、力を出し切らずに過ごしているかを教えてくれました。『ライオン誌』英語版10月号では、大きな夢によって偉業を成し遂げたクラブとライオンたちを特集しています。*皆さんはどうしますか？*　選択肢は二つあります。一つは現実に合わせて夢を縮小すること、もう一つは夢に合わせて現実を広げていくことです。ライオンズの歴史は、後者がより良い未来を導くことを立証しています。1世紀近くにわたって夢を実現してきた私たちにとって、*夢を抱くことは持ち前の能力に他なりません。*

夢は魔法ではなく、努力によって実現されるものです。その極めてシンプルながらも確実な方法は、**まず、夢に名前を付けることです**。夢を息付かせ、支援を集め、機運を生むには、それを他者と分かち合い、世に広める必要があります。**次に、その夢の達成に向けて計画を立てます**。行動計画は、まさしく夢の実現に向けて推し進めるものです。今日、明日、今週、遅くとも今月中には取り掛かってください。地域社会はライオンズの夢と奉仕への情熱を必要とし、友人と隣人はその力強い優しさ、「ウィ・サーブ」の働き掛けを待ちわびています。

私たちは自分が望むような存在になるのです。夜に夢を見る人は、朝起きた時にその内容を思い出すことが出来ません。昼間に夢を見る人は完全に目覚めていて、自分にこれが出来たとしたらどうだろう、これを試してみたらどうだろうと考えます。彼らは夢を持つだけでなく、その夢を生きているのです。ライオンであることはそれ自体がすばらしい贈り物、夢のように理想的な生活であり、他者への善意と思いやりを分かち合う絶好の機会を与えてくれます。だからこそ、**それぞれに夢を追いかけようではありませんか！**

2013-14年度国際会長
バリー・J・パーマー

THEME

人気沸騰のゆるキャラや、行列の出来るB級グルメ。
いずれも地域の魅力を発信して、町おこしを図ろうという取り組みだ。
その土地の伝統や自然など地域の魅力を掘り起こし、それを活性化に
つなげようと取り組むライオンズクラブの活動をリポートする。

地域の魅力発信

地域の魅力を生かしたアクティビティ

ライオンズ会員の多くは地域の中小零細企業の経営者であり、祭や伝統行事といった地域社会の営みを支える存在でもある。そんな地域の担い手たちが集い、地域奉仕を標榜するライオンズクラブにとって、地域の活性化は大きな関心事の一つだ。地域の魅力を見いだし、内外に発信して活性化につなげようというアクティビティのアイデアは、これまでに本誌で紹介してきた中にも豊富にある。

四国にB級グルメブームを

多度津ライオンズクラブ

香川県

多度津

多度津は海運、鉄道業などで栄えた町だが、国鉄の民営化などにより活気を失った。そんな状況を憂いた多度津ライオンズクラブは工場労働者がよく食べていた「鍋ホルうどん」に目をつけた。これをB級グルメとして売り出し、町に活気を取り戻そうというアイデアだ。クラブは多度津鍋ホルうどん普及委員会を発足。他のB級グルメ団体に呼び掛けて四国B級ご当地グルメ連携協議会を設立した。これには10を超える団体が参加してマスコミにも数多く取り上げられ、四国でのB級グルメブームの火付け役となった。2011年には「四国B級ご当地グルメフェスタinまんのう公園」を開催、3万人が集まった。（11年9月号掲載）

人影まばらで、固く閉ざされたシャッターばかりが目立つ商店街。その一方で、郊外の幹線道路沿いには大型ショッピング・センターや専門店が建ち並ぶ。地方の町を訪れると、どこでも同じような光景を目にする。中心街の空洞化を表す「シャッター通り」という言葉をよく耳にするようになったのは、１９８０年代後半。日本がバブル景気に沸いた頃と重なる。大規模なリゾート開発やいわゆる箱物建設で地方再生を図ろうとしたバブル期を経て、その後は地場産品の発掘や景観を生かした町づくりなど、地域の持つ魅力や特色を生かした活性化の試みが盛んに行われるようになった。最近では一大ブームを巻き起こしたＢ級グルメ、「ひこにゃん」が火付け役とな

鳥取県
倉吉

鳥取県中部の倉吉市を流れる玉川。ここで毎年４月、倉吉打吹ライオンズクラブ主催の「くらよし打吹流しびな」が行われる。この玉川沿いは昔ながらの土蔵や商家が軒を連ねるレトロな町並みだ。元々、川の清掃作業をしていた倉吉打吹ライオンズクラブだったが、流しびなによって人々の玉川に対する意識を高めようと考えた。市内の幼稚園、保育園に材料を提供し、子どもたちに流しびなを作ってもらうことで、保護者を通じて大人も巻き込むイベントとなった。1985年に始めて以来、玉川美化のポスターを募集したり、写真コンテストを開催したりと企画を打ち出してきたこともあり、春の風物詩として定着。今では市内の各種団体がこれに合わせてイベントを組むほどになった。（11年７月号掲載）

土蔵の町並みと
流しびな
倉吉打吹ライオンズクラブ

った「ゆるキャラ」、更には「あまちゃん」で注目を集めたご当地アイドルというのもある。

各地のライオンズクラブによる活動も多彩だ。

まずは、新しい祭やイベントの創出で、地域を活気づけ、観光も呼び込もうというアクティビティ。▼大分県中津市は福沢諭吉の出生地として知られる城下町。古くからの交通の要衝で、周防灘に面した中津港は1999年に重要港湾に指定された。中津沖代ライオンズクラブはこれを機に「中津みなとふじまつり」を企画。会場は港に隣接する公園で、ここには姉妹クラブの大阪福島ライオンズクラブから贈られた「野田藤」が大きく枝を広げている。祭はフジが見頃を迎える4月末に開かれ、地域の人たちによる神楽やバンド演奏など、さまざまなイベントで盛り上がり、最後は花火大会が締めくくる。11回目の今年は1万人もの人出でにぎわい、市を代表する祭に成長している。▼広島県・三次ライオンズクラブは、忠臣蔵で知られる浅野内匠頭の妻・阿久利が三次出身であることなど、地元と赤穂浪士とのつながりに着目した。毎年12月の三次義士祭では義士に扮したメン

香川県
小豆島

日本で初めてオリーブ栽培が行われたことでも知られる小豆島。ここでは小豆島ライオンズクラブが町有地300坪を借りてオリーブを栽培、販売している。島の名産品に目をつけた資金獲得事業だ。この事業の始まりは2005年に環境保護アクティビティとしてオリーブの木100本を植樹したこと。その後もクラブでは毎年手入れを続け、2年目からは収穫した実を「新漬オリーブ」として販売し、活動資金を調達している。小さなオリーブの実を一つひとつ手摘みし、緑色の実だけを選定した上で1週間塩漬けにする。この新漬オリーブは島の商工祭で直売するが、ほとんど予約で完売してしまうほどの人気商品だ。(12年12月号掲載)

バーが行列し、丹精込めた討ち入りそばも販売する。観光客も呼び込む師走の名物行事となった。▼地域に再びホタルを飛ばそうと、昨年6月に2年越しのプロジェクトを成功させたのは大阪府・堺仁徳ライオンズクラブ。鑑賞会には9日間で述べ9千人が訪れて、観光活性化にもなると期待されている。

地域独特の「食」を生かして、活性化につなげようという取り組みもある。▼かつて鉄鋼の町として栄えた北海道室蘭市は、最盛期18万人を数えた人口が半減。そんな町に元気を与えようと、室蘭中央ライオンズクラブが注目したのが独自の食文化だった。「室蘭焼き鳥」は、「焼き鳥」でありながら鳥ではなく豚、ネギではなくタマネギを使い、薬味には七味ではなく洋がらしを添える。2001年、クラブは「室蘭焼き鳥委員会」を設置し、市民の意見を聞く試食会などを企画。その活動が実を結び、室蘭焼き鳥ゆうパックの発売にこぎつけた。残念ながらクラブはその後07年に解散したが、室蘭の味を全国へ発信した功績は大きい。

次世代に古里の魅力を伝え、地域活性化の担い手を育てようという活動もある。▼青森県・十和田

トキの古里を訪ねる
健康ウォーク
佐渡ライオンズクラブ

トキの島、佐渡では佐渡ライオンズクラブがトキの足跡をたどる健康ウォークを実施している。初回の2005年の参加者は20人ほどだったが、PRを繰り返すうちに年々増加。今では定員いっぱいの50人が参加する。ガイドはトキが生息した生椿という地域に長年住んでいた高野毅さん。旧トキ保護センターやかつての観察小屋などを歩いて回りながら、野生のトキがいた頃の話や、保護活動などを詳しく説明してくれ、参加者はトキと佐渡の関係について深く知ることが出来る。結成当初からトキに関する活動を続けてきた佐渡ライオンズクラブは今、この健康ウォークでトキと島の歴史を伝える役割を担っている。(13年7月号)

新潟県 佐渡

おいらせライオンズクラブは市内の小中学生を対象に「わたしの好きな郷土、人」をテーマにした写真コンテストを行い、子どもたち自身の目を通して地域の魅力を発見してもらった。▼石川県・小松青雲ライオンズクラブが開いたのは、「ふるさと小松検定キッズセミナー」。古里について知ることで地域貢献への意識を高めてもらおうと企画した。先生役は地元高校生に務めてもらい、若い世代が手を取り合って古里を盛り上げていくことを期待する。▼親子が参加する催しを実施したのは岐阜南ライオンズクラブ。10周年記念事業の夏休み特別企画「親子歴史探検隊」には、郷土の史跡や文化を共に学ぶことで大切な地域の遺産を親から子へ守り伝えてほしいとの願いを込めた。こうした活動は青少年向けに限らない。市民に地域の魅力を再発見してもらうタウンウォッチングやスタンプラリー、ウォークラリーを開く活動は各地で行われている。

地域に深く根を張ったライオンズクラブにこそ可能な活動は、ここに紹介した他にもまだまだあるに違いない。まずは、自分たちの地域にまだ隠れている魅力はないか、探してみてはどうだろう。

■広島佐東ライオンズクラブ

地域住民の心の風景を取り戻し、町の魅力を未来へつなげる

梅の名所再び

JRの駅名に「梅林」の名が残るほど、梅の名所であった広島市佐東地区。ところが、終戦前後に起きた水害や、大規模な区画整理が原因で梅林は消滅した。クラブ発足当時から梅林の復活に挑み、地域活性化を目指すクラブの取り組みを追う。

文／砂山幹博　写真／関根則夫

かつての梅の名所「八木梅林」

今は昔、813年のある日のこと。現在の広島市の内陸側、安佐北区内に寺を開くために訪れていた弘法大師は喉の乾きを癒やそうと、一軒の茶屋に入った。店主の翁が湯飲み茶碗に梅干しを一つ入れ、お茶を注いで大師をもてなしたところ、大師はこの梅茶をことのほか気に入った。

「この梅は、どこの産であるか」と大師は翁に尋ねた。「へえ、この梅は当地、八木の産であります」と翁が答えると、「この土地は、梅の木が育つのに非常に適している」と大師。

界隈を案内してほしいと乞われ、翁は大師を連れだって、八木の地を歩き回った。しばらくすると大師は立ち止まり、翁にこうささやいた。「ここが最も梅の木に適しているから、ここに梅を作るがよい」

大師の言葉に従って、翁が梅を栽培してみると、他村の梅の実に比べ、特別に大きく肉付きの良い梅が出来た。香味良く、肉質は柔らかく、塩漬けにしても酸味が強すぎない、すばらしい梅であった。翁は、茶屋に来る客に、この梅を使った梅茶を出し、その良さを存分に宣伝した。また、郷土の人々を誘っては大いに梅の木の栽培を勧めた。その結果、この地は後に天下に名を成す「八木梅林」となるのであった。

――

地元に伝わる八木梅林誕生の物語である。そして、時代は一挙に下って19世紀。日清戦争（1894〜95年）の頃に広島市内でチフスが大流行した際、八木梅林の梅が軍納され薬用として使われた。以来、八木の梅は広島市の名を高める特産品となった。

全盛期の梅林の広さはおよそ1万坪（サッカー・グラウンド4面分）。老樹奇木の多い名所であったことから、戦前までは茶店などが並び、多くの観光客でにぎわっていた。ところが、戦争が始まると梅林は畑に開

収穫した梅の実で、梅シロップと梅干しを作ります！

大きなかめの中に、
梅の実を平らに並べて
塩を振る……
梅干し作りの授業は
きっと一生の思い出に
なるはず
（八木小学校）

歩いて持ち帰るのが大変なほど、たくさんの梅を拾った緑井小学校の子どもたち

墾され、終戦前後の2度の大洪水で大半の梅の木が流された。更に近年になって、大規模な区画整理のため辺りは全て更地となり、梅の木は完全に姿を消した。残ったものといえば、国鉄可部線（当時）の「梅林」という駅名だけというあり様であった。

クラブ発足時からの梅林復活事業

広島佐東ライオンズクラブのメンバーの誰に聞いても、小学校の遠足といえば八木梅林へ出掛けたという答えが返ってきた。往時の規模には程遠

ライオンズのおじさんが長い竹竿で枝を叩いて、落ちてきた梅を拾うのが基本の収穫スタイル。それでは飽き足らないのか、手の届く場所から直接もぎ取る子どもの姿もあった（八木梅林公園で、梅林小学校の子どもたち）

いものの、依然として町の名所であった梅林の景色は、メンバーはもちろん地域住民の心の中に鮮明に残っていた。だから1985年にクラブが発足した時、誰とはなしに「消えた梅林を復活させよう」と言い出し、梅林の復活事業がクラブの最重要アクティビティとなった。

チャーター・メンバーらの梅への思いに共感したのがクラブ最高齢、現在91歳のライオン中島清。クラブが結成された1年後に、梅が縁でクラブに入会した。梅林復活の目標が掲げられた時、梅の苗木を植える畑をライオン中島が提供したのだ。

「梅は土質が適していないとうまく育ちません。八木梅林が有名になったのも土質が良かったから。肥え過ぎてもだめで、適度に水はけが良くないといけない。うちの畑はたまたま適した土だったようです」（ライオン中島）

小学生による収穫が終わるまで、梅の採取をしないよう呼び掛ける看板が至る所に設置されていた

最初に植えた苗は約500本。接ぎ木した2年ものの苗木を仕入れ、根巻きをして穴を掘り、1週間ほどかけてメンバーが植えた。最終目標は千本だったが、植える場所がなく、最初の500本で断念。まとまった土地がほとんどなかったため、多くの梅は太田川や、その分流の第二古川沿いに植樹した。唯一苗木をまとめて植樹出来たのが、現在の八木梅林公園。1995年に完成した時に100本近い梅が植えられた。かつての広さには到底及ばないものの、梅林は復活したのだ。道路の拡幅工事で太田川の土手を崩した際に50本ほどが伐採されたが、それを除けば28年前に植えたものがほぼ維持されている。もう根がしっかりしているため、あまり手が掛からない、とあ

るメンバーは言うが、それも管理が行き届いているから。事業が始まって以来、施肥と害虫駆除、枝の剪定を年に一度ずつクラブが独自で行っている。

梅のアクティビティ、地元小学校へ伝播

だんだんと蒸し暑さが増してくる6月中旬。梅が熟れる時期は年によって異なるが、今年は早く熟した上に豊作。大きな実をつけた梅が目立った。第二古川沿いの梅並木の枝の下で大きなレジ袋を持って待ち構えているのは、緑井小学校3年生の4クラス132人。赤いベストを身に付けたライオンズのおじさんが長い竹棒で木の枝を叩くと、バラバラと落ちてくる梅の実に歓声が上がった。一粒、また一粒と拾っては、自分の袋に放り込んでいく。

クラブは2002年から、地域の三つの小学校の児童を梅の実の収穫体験に招待している。小学校側からすると、総合的な学習の一環で、梅の実の収穫を通して、地域の自然と触れ合うことを学ぶ機会となっている。児童らが収穫した梅の実の一部は各自が自宅用に持ち帰るが、大半は授業の中で作る梅干しや梅シロップの材料となる。

この日は、八木梅林公園で梅の収穫を行ったのは、梅林小学校の6年生。校名にちなんで、梅にまつわる活動を行っている学校だ。同校では年に数度、地場産の材料を使った給食が出るのだが、その中でも梅干しをつぶしてルーに入れた「梅林カレー」が子どもたちに大人気。この梅干しは、校内にある梅の木から4年生が採取した梅で作ったものだ。

収穫体験が始まる前に、先生から「ただ梅の実を拾うだけではなく、なるべくライオンズの人とお話をするように」と話があった。6年生に

梅干し作りに取り組む子どもたち。梅の実を傷つけないように竹串を使って丁寧にヘタを取り除いていく。手を挙げている2人は作業が終わったのかな？（八木小学校の子どもたち）

よるこの学習の最大の狙いは、地域の大人とコミュニケーションを図ること。恥ずかしがりながらも「ありがとう」とお礼を言う子がいれば、ライオンズのおじさんと会話を弾ませる元気な子の姿もあった。

毎年3月の第1日曜日に、八木梅林公園で開催される梅林春こい祭。会場では、来場者にメンバーが作った梅酒が振る舞われた

　前日に収穫を済ませ、取材当日に梅干しと梅シロップ作りの授業を見せてくれたのは、八木小学校の3年生。児童らが拾った梅を、事前に担任の先生が食用に適したものとそうでないものに、更に梅干しに使う黄色く熟れたものと、シロップに使う青みがかったものに選別。こうして用意された梅で、午前中に梅干し、午後に梅シロップ作りに挑戦した。

　自分で拾った実に、「これは食べられるんだろうか」と関心を抱くところから始まり、自分たちで仕込んで、みんなで食べるというのは非常に良い学習素材、と同校の校長もこの活動を評価する。実際、これまで梅干しが苦手だった子も、この授業をきっかけに食べる気になったという。梅シロップは家族と一緒にスポーツを行った後に炭酸水で割って飲み、梅干しはおむすびにして食べているそうだ。

　クラブでも梅の実を採取して梅酒を作っている。担当するのは主にメンバーの夫人たち。8リットルの瓶に、よく下処理をした梅の実を2キロ、氷砂糖1キロ、ホワイトリカー1・6リットルが投入されるとひとまず完成。常時75本ほどが保管されている倉庫で3年間の眠りにつく。2年後に結成30周年を迎えるので今年は少し多めに作った。だから倉庫は満杯状態だ。この梅酒、何か行事がある度に登場するので、近隣のライオンズクラブの間でも有名だ。毎年3月の第1日曜日に八木梅林公園で開催される「梅林春こい祭」では、来場者に振る舞われる。この祭りは商工会が中心となり、子ども神楽などが行われる、地域住民約5千人が集まる大イベント。もちろん広島佐東ライオンズクラブも毎年参加している。今年は3年ものの梅酒を用意し、500杯分を来場者に楽しんでもらった。

　ライオンズが植えた梅の苗がこの地に根付いて28年が経つ。最初に実った梅を拾った子どもたちも大人になり、ひょっとするとその子どもの世代がもう既に梅の実拾いをしているかもしれない。たかが梅の木だが、長きにわたって梅と共に歩んできた地にあっては、その1本が地域の住民の心をつなぐ存在であり続ける。

今年仕込んだばかりの梅酒と共に。広島佐東ライオンズクラブのメンバー

■地域の魅力発信人❶佐川泰正（北海道・上富良野ライオンズクラブ）

壮大な景色を楽しめるフットパスを世界へ発信したい

「それはエゾクガイソウ。向こうの黄色い花はメマツヨイグサです」

雄大な十勝連峰を間近に望む小道を歩きながら、ライオン佐川の目や耳は足元に揺れる草花や鳥のさえずりにも向けられている。

ここは上富良野町内に11あるフットパス・コースの一つ。4年前にライオン佐川が設定した「かみふらのフットパス」には、ゆるやかに起伏した田園風景の中を歩くコースや、山懐に抱かれた温泉を起点にしたコースがある。その全てのコースの出発点が、町の中心から車で15分以内にあるという手軽さも大きな魅力だ。

イギリス生まれの「フットパス」は、地域にあるありのままの風景や町並みを楽しめる小道のこと。ただ景色を眺めるだけでなく、土地の歴史や文化に触れ、地元の人との交流を楽しみながら歩くのが、フットパスの醍醐味だ。イギリス国内には"Walkers are Welcome Town"（ウォーカー歓迎の町）のキャッチフレーズを掲げたフットパスによる地域づくりで、大きな経済効果を上げている町や村がある。日本でも、2009年にフットパスを町おこしに生かそうという自治体やNPOなどが参加して、日本フットパス協会が設立された。ライオン佐川の場合は地域おこしを目的にスタートしたわけではないが、フットパスの活動には従来の観光スタイルを変化させて、地域の活性化につなげていく可能性があると考えている。

改めて言うまでもなく、富良野盆地一帯は北海道を代表する観光地で、夏のラベンダーの季節を中心に全国から観光客が押し寄せる。しかしそのほとんどは有名スポットを足早に巡る「点」の観光。それを「面」の観光に変えるのがフットパスだ。道端の小さな滝を登るウグイも、畑仕事に精を出すおじいちゃんの姿もその土地を物語る資源。そう考えれば地域全体が宝物になる。町を訪れる人にその宝物をゆっくり味わい、楽しんでもらえるようになれば、小さな宿や商店にまで経済効果が広がっていくはずだと、ライオン佐川は話す。

フットパスに出会う前から、ライオン佐川は環境ボランティアとして自然をテーマにした絵画展の開催や子どもたちへのクラフト指導を行ってきた。そうした活動の中でフットパスを知り、その魅力にすっかりはまってしまった。既に道内にいくつかあったフットパスを視察。そして、上富良野でのコースづくりのために町内をくまなく歩き、無理なく、出来るだけ土の上を歩ける11コースを選んだ。更には、富良野盆地ロングト

インドア派だったライオン佐川が歩く喜びを知ったのは妻の典子さんに山歩きに誘われたのがきっかけ。フットパス活動にも一緒に取り組む

レイル、全長450キロに及ぶ大雪山ロングトレイルといった本格派向けの長距離フットパス・コースも設定。コースの整備や清掃を行う他、マップ入りのパンフレットを作成してPR活動に取り組んでいる。

上富良野では今年9月に「全道フットパスの集い」が開かれ、来年には日本フットパス協会の「全国フットパスサミット」が開催される予定だ。L佐川はイギリスやアイルランドのフットパスを歩いた経験から、上富良野フットパスは本場に全く引けを取らないと確信している。国内はもちろん、欧米を始め海外のウォーカーにも上富良野フットパスの魅力を発信していこうと意気盛んだ。

佐川泰正（さがわ・やすまさ） Profile

1953（昭和28）年5月、北海道上富良野町生まれ。㈱佐川建設代表取締役。上富良野商工会会長。NPO法人環境ボランティア野山人代表。2009年から富良野地域でフットパスの活動をスタートし、上富良野フットパス愛好会を立ち上げた。89年1月上富良野ライオンズクラブ入会。今年度クラブ会長。

■地域の魅力発信人②上坂卓雄（兵庫県・出石ライオンズクラブ）

観光客0の町を、年間100万人が訪れる町に変えた観光カリスマ

明治から昭和30年代にかけ、歌舞伎や寄席、活動写真など但馬の大衆文化の中心として栄えた永楽館も、L上坂らの尽力により5年前に復活した

但馬の小京都と呼ばれる豊岡市出石は、日本最古の時計塔「辰鼓楼」や江戸中期に建てられた酒蔵など、郷愁を誘う美しい町並みで、多くの観光客を引き付けている。

が、50年前には、観光を目的に出石を訪れる人など皆無に等しかった。京阪神から天橋立や城崎温泉など、有名観光地へ向かう途中にありながら、出石は完全スルーだった。

潮目が変わったのは1968年、出石城に木造の隅櫓が復元されてからだ。「何とか寄ってくれんかなあ」。そんな望みを抱いた町民有志が、寄付を募って建設したものだった。そしてこれを機に、観光客が少しずつ訪れるようになった。その上、隅櫓の復元は町民の連帯という副産物をも生み出した。

そうした中、73年に出石観光協会の改組が行われ、一般町民約400

上坂卓雄（うえさか・たくお）　Profile

1933（昭和8）年生まれ。㈱上田屋油店代表取締役。出石まちづくり公社元代表取締役。観光庁選定「観光カリスマ」。1965年兵庫県・出石ライオンズクラブチャーター・メンバー。80年度クラブ会長。84年「静思塾」、88年「出石城下町を活かす会」を設立するなど、観光出石の礎を築いた。

人が参加する、当時としては全国に例を見ない観光協会が誕生した。それを主導したのが、上坂だった。

上坂は更に出石の伝統的な食文化「皿そば」に着目。出石そばは１７０６年、出石藩と信州上田藩が国替えとなった際、上田藩主と共に信州から来たそば職人の技法が在来のそば打ちの技術に加えられ誕生したと言われる。その後、藩内で白磁の鉱脈が発見されたのを機に出石焼の生産が始まり、白地の小皿にそばを盛る様式が確立した。

が、60年代には出石のそば屋は2軒しかなく、しかも秋から春にかけての半年しか営業していなかった。

これを出石名物にしようと考えた上坂らは、実演販売のため全国を回り、出石皿そばのＰＲに努めた。

そのかいあって、出石城や古い町並みと共に、皿そばを食べたいという新たな観光客も掘り起こし、出石を訪れる人は右肩上がりに増えた。それに伴いそば屋も増え、今や50軒が軒を連ねる。そして、観光客誘致だけではなく、皿そば、出石焼という伝統文化を地場産業として成り立たせることにも成功した。

その一方、上坂は出石の町づくりがこのままでいいのか疑問を持つようになった。そこで町づくりの専門家や建築家などを招き、交流・議論する中で、出石の魅力である美しい町並みを保存する運動を起こすこととなる。そして87年、出石ライオンズが中心となり、第１回目の「兵庫・町並みゼミ」を開催した。

その翌年、上坂は町民に働き掛け、「出石城下町を活かす会」を設立。会には大工、屋根屋、左官といった建築関係者を含め総勢１８６人が参加した。上坂は設立当初から会長として、町民・行政・専門家が協力した町づくりを進めることを考え、町並ウォッチングや講演会、出石の地酒にスポットを当てた「酒蔵コンサート」や「地酒を飲む運動」などの活動を主導した。

その集大成として98年、第３セクター「出石まちづくり公社」を設立。１株５万円で株主を公募したところ、町民３３９人から応募があり、町づくりに対する町民の関心を更に高めることになった。

現在、出石には年間１００万人という観光客が訪れるまでになった。その立役者こそ、「観光カリスマ」の称号を持つ上坂なのだ。

被災地のライオンズは今

宮城県・塩釜ライオンズクラブ

「社とさかなの町」塩釜のイベント「しおがまさま　神々の月灯り」

9月20、21日の両日、陸奥国一宮・鹽竈（しおがま）神社で「しおがまさま　神々の月灯り」と題したイベントが開かれた。夜になると、神社へ続く参道や202段の表坂に並べられた竹灯籠に火がともされ、訪れた市民や観光客らは、昼間とは違う「しおがまさま」の幽玄な表情に酔いしれた。また、かがり火がたかれた舞殿では雅楽や琴の演奏が行われ、月灯りの下、雅な音色の響宴を楽しんだ。

塩竈市は宮城県のほぼ中央、100万都市・仙台と日本三景・松島の中間にあり、鹽竈神社の門前町として古くから栄えてきた。鹽竈神社は東北開拓の守護神で、東北で最も多くの初詣客が集まることでも知られる。主祭神の鹽土老翁神（しおつちのおじ）は塩竈の人々に煮塩の製法を教えたとされる神様で、毎年7月に行われる鹽竈神社例祭では鹽土老翁神ゆかりの「藻塩焼神事」によって作られた塩が供えられる。

この神事は例祭を前にした7月4日から6日までの3日間、境外末社の御釜神社で行われ、海藻を使って濃度の高い塩水を作り、これを煮詰めて製塩する昔ながらの行程が再現される。古代の塩作りを伝える神事として、宮城県の無形民俗文化財に指定されている。また、御釜神社は鹽竈神社と同じ鹽土老翁神を祭っており、鹽土老翁神が製塩に用いたと伝えられる4口の竈が安置されている。

顔晴れ（がんば）塩竈の藻塩

仙台駅からJR仙石線に乗り約30分。本塩釜駅で降り神社参道口へ出ると、すぐ左手に「しおがま・まちの駅」がある。塩釜市商業協同組合が運営する「まちの駅」は、地元特産品のアンテナショップであるのと同時に、地域住民や観光客が気軽に立ち寄り交流出来る場ともなっている。隣には塩竈市観光物産協会の案内所があり、塩竈の情報発信基地として相乗効果を発揮している。

この両者に共通して置かれている商品が「塩竈の藻塩」で、作っているのは「顔晴れ塩竈」。「塩の聖地」である塩竈を活性化させたいと、水産加工を本業とする及川文男さんが設立した会社だ。震災の2年ほど前から加工場の一部を改装し、昔ながらの製法で塩を作り続けてきた。津波で被災し、神棚と竈だけしか残らなかったが、震災から約2カ月後、その竈を使って塩作りを再開した。

商品の中には、容器を作っていた企業が被災したため取り扱い中止のままになっているものもあるが、「塩竈の藻塩」や、貴重な結晶塩を瓶詰めにした「塩竈の藻塩・フラワーソルト」などの主力商品は健在。「海で生きてきた自分たちが、海から逃げるわけにはいかない」と、海と共に生き、塩竈の原点「塩」を通した町づくりで復興に貢献したいとしている。

「しおがまさま　神々の月灯り」では、鹽竈神社へ続く参道や202段の表坂に竹灯籠がともされ、昼間とは違った幻想的な趣となる

東日本大震災

「顔晴れ塩竈」の藻塩作り

闇市と寿司屋

塩竈市は生マグロの水揚げ日本一を誇る。本塩釜駅の近くにあった塩釜海岸中央鮮魚市場―通称「闇市」は、そんな塩竈市で一番古い魚市場だった。地元の人ばかりか、観光客にも親しまれていたが、東日本大震災で2メートルを超える津波に襲われ、市場は廃墟と化した。

現在は、闇市を挟むように建っていた2軒の寿司店「鮨しらはた」と「すし哲」だけが、津波で破壊された1階部分を改装して営業を再開している。実はこの2軒、店主が兄弟同士の実の兄弟店。人口に対して日本一、寿司屋が多いと言われる寿司激戦区・塩竈で、どちらも三本の指に入る有名店だ。

また、塩竈には浦霞や阿部勘という銘酒もある。うまい酒があって、それに合う豊かな酒肴もある町・塩竈。アクセスもいいので、ぜひ訪問して頂きたい。

「藻塩焼神事」に使われる御釜神社の竈

「社とさかなの町」を代表する寿司店「すし哲」のにぎりは伊万里焼の器に盛られる

仮設住宅に住む人たちの心のケアを

闇市にあった店の幾つかは、宮城県の被災地では最初の仮設商店街として震災5カ月後にオープンした「しおがま・みなと復興市場」に入っている。浦戸諸島を結ぶ汽船や、松島遊覧船の発着場となっているマリンゲート塩釜に隣接し、観光客も入りやすい商店街だ。

そのマリンゲート塩釜の2階には塩釜ライオンズクラブ（松尾伸彦会長／29人）の事務局が置かれ、例会（第2・4火曜日18時半〜）もここで開かれている。

同クラブは震災後、全国のクラブから送られてくる支援物資の受け入れ窓口となり、塩竈市だけではなく、沿岸部のクラブを通じて被災地に物資を届けていた。そうしたつながりから、12世帯14人の震災遺児に育成資金を贈る活動（協力／335・A地区、337・E地区）や、相互訪問を通じた塩竈の物産販売（山形県・米沢松川ライオンズクラブ）など、今も全国のクラブと協力関係にある。

「震災前に実施していたアクティビティも徐々に再開しています。今後は仮設住宅に住む方たちの心のケアにも取り組み、復興まで地域に密着したライオンズらしい活動を続けていきたい」

と松尾会長は話す。（取材／鈴木秀晃）

「しおがま・みなと復興市場」には闇市で営業していた鮮魚店など15店舗が軒を連ねている

執行役員だより

会員倍増で日本ライオンズ復興

■国際第2副会長
山田實紘
（岐阜県・美濃加茂）

本年度、バリー・パーマー国際会長は、日本ライオンズのみの特別な役職として、家族会員開発エリア・リーダーと女性会員開発エリア・リーダーを任命されました。このことは、ライオンズクラブ国際協会が日本において家族と女性の会員増強に力を入れている証拠です。

私は国際第2副会長として「My Family My Club／家族で会員倍増を」をテーマに掲げました。ライオンズクラブ国際協会が4年後に100周年を迎えるに当たり、今後も協会が世界に冠たる奉仕団体であるためには、会員増強が不可欠であることは共通の認識です。しかし日本で会員増強を唱えても、多くの場合、入会金や年会費が高過ぎるとの理由で、結果を出すことが難しい状況です。他国は年間2～3万円のクラブ会費で運営されていますが、日本では10～30万円必要とします。既存のクラブが会費を国際水準まで安くするのも容易なことではありません。これまでの慣習からクラブ運営を考えた場合、事務所費や人件費等の負担を半分にするのは現実的ではなく、また既存のクラブに入会するよう働き掛けたとしても新会員を見つけるのは容易なことではない、という八方ふさがりの現実に直面しているのです。

全国の地区ガバナーと第1、第2副地区ガバナーが参加し開かれた第1回全国ガバナー会議で、会員倍増の目標を語る山田副会長

この状況下で、有効な打開策であり、国際本部でも奨励しているのが、家族会員の入会です。この制度は2007年にスタートしており、全世界で成功を収めているプログラムです。世帯主1人につき4人まで家族の入会が許可され、世帯主以外の家族会員は、国際会費が半額の21・5ドルになります。この方法でどんどん会員を増やしている国もありますが、日本では普及しておりません。例会出席を義務付けていることや、根強く残る紳士クラブ的感覚が要因となっているのかもしれません。もちろん家族そろって出席するのが望ましいのですが、日本文化にはなじみにくいため、1世帯1人が出席し、他の家族会員に口頭伝達すれば良いとすれば、広く普及するでしょう。例会を始めクラブ運営のツールとしてインターネットを活用するサイバー・クラブも出現した現在、日本の古い考えに縛られていては、国際協会から取り残されてしまいます。

8月23日、国際理事、複合地区協議会議長、国際委員ご臨席の下、全国ガバナー連絡会が開催されました。その席上で、今年度からこの家族会員制度を大いに押し進め、日本の会員数を現在の10万人から20万人に倍増しようということで全員のコンセンサスを得ました。

世界中に日本ライオンズのアイデンティティー（存在意義）を顕示するには、30数年ぶりに国際会長を輩出する今が千載一遇の好機であると考えます。政治的にも埋没している日本を我々日本ライオンズが盛り上げるという大望を抱き、実現していこうではありませんか。各地区ガバナーとクラブ会長のリーダーシップの下、全てのクラブで本年度中に会員倍増を断行し、是が非でも日本ライオンズ復興の年に致しましょう。

ライオンズニュースカセット

NEWS CASSETTE

参加者７～８人ずつに分かれて行ったテーブル・ディスカッションには、正木地区ガバナー（右から２人目）も加わった

全ての垣根を超えて友情を育んだ 333・C地区の大交流会

8月31日、千葉市のカンデオホテルズ千葉において、333・C地区（千葉県／正木守地区ガバナー）の「会員大交流会in３３３・C」が開催された。会を企画運営した地区GMT・GLTは当初、若手・女性フォーラムとして計画していたが、年齢や性別の垣根を超えて交流を図ろうと方針を転換し、更には地区外からの参加者も募った。その結果、他地区からの参加者52人を含む３００人が参加。会の冒頭には、来賓の清水英徳国際理事が「和気あいあいのうちに相互理解と人の絆を結んで、世界に向けて333・C地区の熱さを発信してください」と激励し、正木地区ガバナーは「楽しんでください。何でもいい、再びの出会いを約束してください。そして共に夢と希望を持ち続けるライオンズクラブにしましょう」と呼び掛けた。参加者に課せられたミッションは一人でも多く友人を作ること。会員間の交流について2回のテーブル・ディスカッションを行った他、積極的に名刺交換をするよう促した。交換した名刺が48枚と最も多かった会員にはプレゼントが贈呈された。ここでの出会いをきっかけに、相互に例会訪問を行うなど地区内外に交流の輪を広げてもらい、多くの仲間とライオンズの誇りを共有することで会員の維持・増強につなげようというのがこの会の狙いだ。会場の各テーブルでは良い意味での科学反応が起こり、友情が芽生えていくのが感じられた。（情報提供：平野寛明333・C地区情報委員長／ライオン誌サポーター）

会員の満足度を高めるクラブ向上プロセス（CEP）の活用を

クラブ向上プロセス（CEP）は、会員の力を結集してクラブの現在と未来を見つめることで、奉仕活動を強化し、会員の満足度の向上を図るワークショップ。地域社会のニーズ調査や会員満足度の分析、クラブ向上に向けた行動計画の立案まで、4段階のセッションを行うというものだ。国際協会はこのプロセスをクラブがより利用しやすくしようと、今年度からCEPプロ（Pro）とCEPライト（Lite）の二つの形式で提供している。ワークショップの内容に大きな違いはないが、プロ版は従来通り地区が派遣するファシリテーターが進行する形式で、ライト版はクラブ会員がコーディネーターを務めてクラブ単独で行える形式。クラブはいずれかを選んで実施する。

CEPを実施するには、進行手順などを解説するガイドブックと参加者ワークブックが必要で、プロ版用とライト版用が用意されている。資料を入手するには、協会公式ウェブサイト（www.lionsclubs.org）の「ライオンズ会員センター」内にある「クラブ向上プロセス」ページで登録を行う。またライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「各種書式／ロゴダウンロード」内にある「GMT／GLT関係」のページでもダウンロード出来る。

日本国内のレオクラブ数は134クラブ

青少年に地域での奉仕活動に参加し、成長する機会を提供するレオクラブ。今年6月30日現在、日本国内には134クラブ、3693人の会員がいる（日本ライオンズ連絡事務所調べ）。このうち半数に近い61クラブ（1568人）は337複合地区内のクラブだ。2012-13年度には新たに三つのレオクラブが誕生したが、このうち二つが337複合地区内で結成されている。

昨年10月に長崎県・佐世保南ライオンズクラブが結成したのはNIUレオクラブ。会員は長崎国際大学に在籍する18～22歳の大学生25人（男性13／女性12）で、募金活動などに取り組んでいる。熊本県・免田ライオンズクラブは結成45周年に当たって後世につながっていく事業をしようと、今年2月にあさぎりレオクラブを結成した。農業を専門とする県立南陵高校の生徒のうち、地元での就農を希望している10人（男性7／女性3）が会員となり、地域に貢献する活動を行っている。岡山後楽ライオンズクラブが今年3月に結成した岡山後楽レオクラブの会員は、岡山理科大学総合情報学部で学ぶ19～22歳の大学生14人（男性9／女性5）。全員が岡山後楽ライオンズクラブが主催した東日本大震災ボランティア・スタディツアーに参加したメンバーで、岡山から何か出来ることはないかという思いで結成された。これまでに親クラブが実施する東日本大震災復興支援募金活動や被災地の子どもたちが撮った写真の写真展、山林へのツツジ植林などの活動に参加している。

グローバル奉仕実施キャンペーン：12月と1月は食料支援をしよう

国際協会の「グローバル奉仕実施キャンペーン」は、年間に青少年、視力、食料支援、環境保護の四つの分野で奉仕に参加しようというキャンペーン。12月と1月には「フードドライブ（食料品収集）」などの食料支援事業を企画しようと呼び掛けている。アメリカで盛んな「フードドライブ」は、家庭で余っている食料品をフードバンクなどに持ち寄り、施設や慈善団体などに寄付する活動だ。品質には問題がないのに市場で流通出来なくなった食品を企業などから引き取り、必要とする施設へ無料で提供するフードバンクの活動は、アメリカでは60年代から行われ、日本では02年3月に初のフードバンクが設立されている。国内のライオンズクラブでは長野中央ライオンズクラブがこの活動に取り組み、市民に呼び掛けて缶詰やインスタント麺など保存可能な食品の提供を受けて、市の社会福祉協議会を通じて福祉施設や障害者施設に寄贈している。

政府広報によれば、日本国内の年間の食料廃棄量は1800万トン。このうち売れ残りや期限

LIONS ON LOCATION 世界で奉仕するライオンズ（『ライオン誌』本部版より）

フランス

未来の職人たちを育てる

フランス北部、中世に建設された海沿いの町ディエップ。この町のライオンズは、若者たちのより良い未来のために、過去すなわち歴史遺産が一つの鍵になると考えた。

ディエップ・ドイエン ライオンズクラブは、歴史的建造物の維持や修復に携わる石工や彫刻家、ガラス職人などの職人たちにその技術を披露してもらうフォーラムを開催している。昨年のフォーラムでは、モザイク職人が肖像画の制作を、ガラス職人は教会のステンドグラスの修理を実演。職人たちの他にも、技術学校で学ぶ生徒たちが木工や鉄製品づくりの技能を発表した。この芸術遺産職業フォーラムには、過去7回で2500人以上が参加している。参加者は芸術遺産の保護や修復に興味を持つ中高生や市民で、クラフトの体験コーナーも設けられる。

事業のコーディネーターを務めるのは、歴史的建造物の修復を手掛ける会社を経営する会員だ。「このフォーラムが目指しているのは、手仕事の大切さを見直し、我々の誇る歴史遺産が地元の職人たちによってどのように守られているかを知ってもらうことです」とライオンクロード・ランディスは話す。

イギリス

バットマン参上

マントに身を包んだ正義の味方とその相棒が、マーケットレーゼンの町を駆け抜ける。マーケットレーゼン ライオンズクラブが主催するバットマン＆ロビン・レースには100人以上のランナーが参加。全員がゴッサム・シティーで悪と闘うヒーローに扮して出場した。

ハリウッド映画「バットマン」はイギリスでも人気だが、このチャリティー・レースのアイデアの出所はイギリスの人気コメディー「オンリー・フールズ・アンド・ホーセズ」だ。ドラマの登場人物が、不似合いなバットマンとロビンに扮して仮装パーティーに出る場面から思いついた。

レースのキャッチコピーは「オンリー・フールズ、ノー・ホース・ラン（おばかさん限定、馬お断り）」。老若男女、体型もさまざまなバットマン＆ロビンの中から選ばれたベスト・コスチューム賞の受賞者には、クラブから賞品が贈られる。

このチャリティー・レースの収益で、クラブは千ドル以上の活動資金を調達した。

切れ、食べ残しなどまだ食べられるのに廃棄される、いわゆる「食品ロス」は500〜800万トンとコメの年間収穫量（約850万トン）に匹敵する。これは世界の食糧援助量（年間約390万トン）を大きく上回る量だ。日本人1人当たりに換算すると毎日おにぎり1〜2個分を捨てている量だと言えば、誰しも「もったいない！」と思うに違いない。もちろん、ロスを出さないことが最善だが、余ってしまった食品を廃棄せずに、必要とする人のために有効活用出来るのが、フードドライブのような活動だ。

会議録

■第2回複合地区ガバナー協議会議長連絡会議（8月28日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：佐藤精一郎、伊藤信賢、若木幹、小板橋欽也、柳原宏行、森本克幸、渡部雅文、鬼塚俊郎各議長、武久一郎、清水英徳両国際理事）

【第Ⅰ部：議長協議】①パーマー国際会長公式訪問②第52回OSEALフォーラム（13年11月7日〜10日／シンガポール）③2016年第99回福岡国際大会についてのお願い（337複合提案）④第23回世界スカウトジャンボリーへの支援に関して（336複合提案）⑤日本ライオンズ連絡事務所運営関係⑥各種委員会報告⑦その他

【第Ⅱ部：国際役員との懇談】⑧パーマー国際会長公式訪問：11月21〜26日⑨マデンLCIF理事長来日：11月11〜15日⑩その他

■第1回東日本大震災復興支援対策本部会議（8月28日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：山浦晟暉元国際理事、武久一郎、清水英徳両国際理事、佐藤精一郎、伊藤信賢、若木幹、小板橋欽也、柳原宏行、森本克幸、渡部雅文、鬼塚俊郎各議長、千葉龍次郎元地区ガバナー、鈴木俊一第1副地区ガバナー、安澤荘一地区ガバナー）

【第Ⅰ部：議長協議】①前年度までの経緯について②2013・14年度組織全体の確認③各種報告（前年度分）④332複合地区からの新たな申請について⑤ボシュロム社コンテンツ再利用に関する依頼

■第2回ライオン誌日本語版委員会（9月3日／ライオン誌日本語版事務所／出席者：武久一郎、清水英徳両国際理事、大熊泰雄、茂尾実、佐藤義則、小西宗仁、大村行範、団英男、組嶽晶一、田崎登保各委員、荘英隆、小柴登司両ITアドバイザー〈オンライン〉）

①2012・13年度監査委員監査報告②ライオン誌日本語版事務所の運営③ライオン誌日本語版出版物④13・14年度ライオン誌日本語版編集長方針⑤9月号（9万8500部発行）出来⑥10月号記事内容の確認⑦11月号以降台割（案）と主要記事予定⑧その他

■複合地区国際大会委員長連絡会議【小委員会】（9月5日／日本ライオンズ連絡事務所／出席者：塚田雅二、石井博之、小林登各委員長）

Ⅰ第52回OSEALフォーラム（13年11月7日〜10日／シンガポール）A本部ホテル優先予約枠利用ツアーコースについてBフォーラム・プログラムⅡ第97回国際大会A国際協会公式ホームページ掲載最新日程

解散クラブ

9月＝北海道・胆振グリーン／千葉県・柏みどり／大阪府・枚方天野川

訃報

■元国際役員

ライオン小林六郎（福島県・白河小峰）

9月13日死去。86歳。03年度332・D地区ガバナー。

■献眼者

4月＝ライオン新村俊治（静岡県・磐田）8月＝ライオン相田清志（栃木県・那須ハーモニーシニア）／ライオン宮川力一（千葉県・銚子中央）／ライオン林義夫（千葉県・旭）／ライオン田中章生（静岡県・沼津）／ライオン桑原純一（長崎県・諫早センチュリアン）

◎ライオンとしての多大な功績をたたえ、ご冥福をお祈り申し上げます。

国際大会開催予定

14年7月4日〜8日：カナダ・オンタリオ州トロント

15年6月26日〜30日：アメリカ・ハワイ州ホノルル

16年6月24日〜28日：日本・福岡

17年6月30日〜7月4日：アメリカ・イリノイ州シカゴ

18年6月29日〜7月3日：アメリカ・ネバダ州ラスベガス

GMT／GLT通信

家族会員制度を活用した会員増強の取り組み

「My Family My Club」のテーマの下、山田實紘国際第2副会長は主に家族会員の増強によって日本の会員数を20万人に倍増する目標を掲げている。これを受けて今年度、日本のGMT（グローバル会員増強チーム）はその目標の実現に向けて全力を注ぐ方針だ。

今年度GMTには家族会員開発、女性会員開発をそれぞれ専門に担当する東西のエリア・リーダーの役職がバリー・パーマー国際会長の任命を受けて新設された（10月号「ライオンズ・ニュース・カセット」）。9月6日には今年度第1回八複合地区GMTコーディネーター会議が開かれ、新体制になった国際チーム・メンバーと各複合地区コーディネーターが出席して会員倍増計画を協議。その結果、目標の達成期限を今年度末の2014年6月30日にすることを決めた。

この会議に先だち、8月31日にタイ・バンコクで開催された東洋・東南アジア地域（OSEAL）のGMT／GLT会議では、日本GMTが20万人会員倍増計画を報告。GMT会則地域リーダーを務めるウィンクン・タム元国際会長から高い評価を受けた。タムリーダーは、この倍増計画に従って各地区ガバナーが新しい会員増強計画を作成するように要請。日本GMTは各地区ガバナーに対して、地区ガバナー・チームで協議の上、新たな計画の立案を進めるよう求めている。

●

家族ぐるみで奉仕に参加しようという家族会員制度は2007年に導入された。家族が同じクラブに所属する場合、世帯主となる会員の下、4人までの家族会員は国際会費の半額が免除される。

日本のクラブに在籍する2人目以降の家族会員の人数は、今年8月末時点で4874人と、会員総数の4・6%。ただし、家族会員制度の導入状況には地区によって大きな差がある。日本を大きく東西に分けて比較すると、東日本の方が制度の活用が進んでいる。地区別にみると、家族会員の割合が最も高いのは332‐B地区（岩手県）で地区全体の21%を占めているのに対して、最も低い337‐A地区（福岡県）では0・1%と、非常に大きな開きがある。

332‐B地区の場合は、家族会員の制度が始まって間もなく、当時の地区ガバナーが家族会員の推進を強く打ち出したことで、地区内クラブの多くが家族の招請に積極的に取り組んだ。次いで家族会員が多いのは334‐B地区（岐阜県・三重県）で、地区全体の19・6%。同地区は昨年度、地区ガバナーの方針を受けて家族会員制度を活用するクラブが一気に増加。それによって773人の純増を果たして年度を終えている。

これら2地区を始め、日本のクラブに在籍する家族会員のほとんどは、既存の会員の配偶者だ。中には家族会員の会員夫人でクラブ支部を結成しているクラブもある。また配偶者以外にも、会員の後継者である息子や娘を家族会員として迎えて、ライオンズの後継者を育てようという動きもある。

家族会員に関する詳しい情報は協会公式サイト（www.lionsclubs.org）の「ライオンズ会員センター」で入手出来る。

LCIF FILE

LCIF Development Update / Foundation Impact

LCIF Development Update

東日本大震災で被災した福祉作業所を支援

宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作業所」では、知的障害などを持つ16人が、LCIF交付金で寄贈された紙すき道具を使い、はがき作りに取り組んでいる。

のぞみ福祉作業所は東日本大震災で作業所が全壊、利用者2人が犠牲となった。更には、水産加工品用の箱折りなど、作業を発注してくれていた地元企業も軒並み被災。震災後は全く仕事が入らなくなり、年間130万円以上を得ていた元の事業の継続は出来なくなった。

南三陸志津川ライオンズクラブを通じてその窮状を知った東京世田谷ライオンズクラブは、世田谷区の障害者施設が作る製品を例に、自主製品の開発を提案。のぞみ福祉作業所として取り組みたい作業を選んでもらったところ、作業所側が紙すきを希望した。

東京世田谷ライオンズクラブは早速、アクティビティでつながりがあり、作業に紙すきを取り入れている、世田谷区の共同作業所STORYに協力を依頼。STORYは、紙すき道具を作る大阪府交野市の「紙好き交流センター」との仲介を始め、多くのノウハウを提供してくれた。

その後、南三陸志津川ライオンズクラブと相談の上、LCIF交付金を申請。東日本大震災指定交付金から約260万円の支援を受け、2012年3月、両クラブの合同事業として「漉き槽」や「漉き枠」を始め、身体が不自由な人でも簡単に作業が出来る「貼り付けローラー」、「バキュームローラー」など、必要な道具一式を寄贈した。

のぞみ福祉作業所では当初、「紙すきはお金にならないよ」と福祉関係者から言われ、不安を胸に新事業をスタートさせたが、さまざまなサポートもあり、徐々に販路が拡大。また作業所側も支援に甘えることなく、商品開発や販売促進に取り組んだ。

その結果、最初は月千円の工賃で始めたものが、今年4月からは震災前の最高額を上回る5千円を支給出来るまでになった。更には障害者アートの商品化を支援するエイブルアート・カンパニーの協力を受け、利用者が描いた絵を使って、はがきやポストカードなどの新商品を開発。その中でも特に、チリ・イースター島から南三陸町へ贈られたモアイ像をあしらった「モアイタオル」が評判となっている。これは施設利用者の菅原知也さんが描いたものを原画として使っており、南三陸さんさん商店街でも人気商品となっている。

「ライオンズクラブを始め多くの方から、さまざまな支援をして頂きました。これからは自分たちが知恵を出しがんばる番」と畠山光浩所長は話している。

Foundation Impact

任務の包括：LCIFはSOとのパートナーシップを拡大する

16歳の時、知的障害と診断されたベン・ハークは、学校に通ったり、スポーツをしたりすることが困難だと感じていた。が、スペシャルオリンピックス（SO）オーストラリアでクリケットとサッカーを始めてから、その考えは一変した。

「SOに参加する前は、自分の人生に何も見いだすことが出来ませんでした。私は学校などで、いじめや虐待を受けていました。そんな時、私はSOに出会い、やっと人生を見つけることが出来たのです。SOは私や家族に希望、支援、尊敬、そして意義を与えてくれました」

ハークは7月に開催されたハンブルク国際大会でこのように話した。

この大会でウィンクン・タム元国際会長はSOとライオンズの共同事業であるオープニングアイズの拡張を発表した。SOの役員である元NBA選手・姚明（ヤオミン）、国際スペシャルオリンピックス委員会（SOI）会長兼CEOのティモシー・シュライバー、そしてハークが、体験談や興味深い話を披露した。ハークは長い間、SOのアスリートであると同時に、SOオーストラリアのリーダーを務めており、SOのヘルシーアスリート・プログラムを支援するオーストラリア・ライオンズの活動をずっと目の当たりにしてきた。

「ライオンズクラブは多くのことをしてくれました。そしてこれからも、世界中でSOのために活動を続けてくれるでしょう。感謝しています。ライオンズクラブは私の仲間のアスリートに眼鏡を提供し、一人のアスリートとして、また一人の人間として成長出来る機会を与えてくれました。しかも彼らは、私たちと一緒に楽しんでいるのです。私たちにとっては、それが最も大事なことです」（ハーク）

2001年以来、SOとライオンズは32万5千人以上のアスリートに眼科検査を提供し、エシロール社やサフィロ社などの協力の下、10万人以上のアスリートに高品質の眼鏡を提供した。

「アスリートたちにとってオープニングアイズ・プログラムは、言葉で言い表すことが出来ないほど重要なものです。というのも彼らの多くはこれまで、自分たちの視力に関心を払ってもらった経験がなかったのです。SOの歴史において、ライオンズより意義あるパートナーはいません」（シュライバー）

更に今回のパートナーシップの拡張によって、ライオンズはSOのアスリートにリーダーシップの機会を与え、SOの健康活動を増やし、家族への更なる支援活動を指導することになる。

「ライオンズは既にオープニングアイズ・プログラムに参加し、SOのアスリートが適切な目のケアを受けられるよう支援しています。私たちは更に多くの健康プログラムやスポーツ・プログラム、そして家族活動などを共に実施することを楽しみにしています。それによって、SOのプログラムを改善することが出来るはずです」（姚）

また、ライオンズとSOはさまざまなプログラムを通して、より多くの青少年に働き掛け、知的障害がある人たちを全面的に受け入れる環境作りを目指している。

「ライオンズクラブの継続した支援に感謝しています。そして、私たちを信じてくださっていることに感謝します。皆さんは多くのアスリートに手を差し伸べ、私たちがリーダーになれるよう、さまざまな機会を捉え自信を与えてくださっています。これらの活動によって知的障害への理解が深まり、偏見やいじめが減って、地域のあらゆる場所で私たちを受け入れてくれる環境が作られていくと思います」

そうハークは話す。

（アリー・ストライカー）

■ライオンズフォーラム in 高松

ライオンズを大いに語ろう

9月15日、香川県高松市の高松シンボルタワーにおいて「ライオンズフォーラム in 高松」（ライオンズフォーラム in 高松実行委員会／山地章靖実行委員長）が開催された。

このフォーラムはライオンズの更なる発展のために研鑽（けんさん）を図ろうと企画されたもので、地元336・A地区（徳島県・高知県・香川県・愛媛県／松前龍宗地区ガバナー）の会員を中心に、宮城や京都などから集まった会員を含む1419人が参加。開会式で浜田恵造香川県知事、大西秀人高松市長の歓迎を受けた。その後、橋本龍太郎元内閣総理大臣夫人の橋本久美子氏を迎えた記念講演に続き、第3回女性フォーラム、クラブ支部フォーラム、LCIFセミナーの三つの分科会が行われた。このうちLCIFセミナーにはLCIF副理事長を務める武久一郎国際理事も出席し、LCIF資金開発課の田辺憲雄課長が交付金事業の成果や申請方法などについて講演を行った。

記念講演で総理夫人としての経験や各国ファーストレディーとの交流を語る橋本氏

ライオンズに女性のパワーを

女性フォーラムは一昨年に千葉県浦安市で第1回、昨年は福岡市でのOSEALフォーラムの中で第2回が開催されたのに続いて企画された。西日本担当GMTエリア・リーダーの高田順一元国際理事、東日本担当GMT女性会員開発エリア・リーダーの河合悦子元330複合地区議長を迎えて、336・A地区内の女性クラブ会長14人がパネリストを務めた。

今年度バリー・パーマー国際会長は女性会員の比率を24・5％から

30%にする目標を掲げているが、日本は12%と世界水準の半分にとどまっており、女性リーダーの輩出も少ないのが現状だ。

今回パネリストを務めたクラブ会長は、女性クラブの会長が4人、残る10人は男女混成クラブの会長だ。各会長はクラブの会員増強策や活動内容を発表。新会員招請の手法として200%例会や地域情報サイトへの参加などが紹介された他、既存会員の退会を防止することが重要だとする意見も出された。このうち徳島県・鳴門ライオンズクラブの岡田理絵会長は、「当クラブは会員51人のうち14人が女性で、世界平均の24%を上回っている。今期は国際会長が目標に掲げる30%を達成させたい」と力強く語った。更に、鳴門ライオンズクラブは50周年を迎えた昨年度のクラブ会長も女性が務めるなど女性会員が積極的にリーダーシップを発揮していると報告。女性参加者への大きな励ましとなったに違いない。

多様性広げるクラブ支部

5人以上の会員で発足させることが出来るクラブ支部は、有効な会員増強策の一つとして注目されている。クラブ支部フォーラムではまず、スピーカーの川手寅平330‐B地区ガバナーが「多様性」というキーワードを挙げてクラブ支部結成の意義を語った。例えば、二世会員などの若い会員による構成や、特定の奉仕活動に取り組むことを目的に結成するなど、会員や奉仕活動の多様化を図ることを意識したクラブ支部づくりは、地域に奉仕するライオンズの力の維持・強化につながると述べた。続いてスピーカーを務めた336複合地区内の二つのクラブ支部は、ライオン川手の提言にもあった若手中心の支部とアクティビティ分野を特化させた支部で、結成の経緯や活動内容について発表があった。

今年3月結成の岡山県・津山鶴山ライオンズクラブ平成支部は、平均年齢36・6歳の会員6人で構成されている。若い世代の入会の障壁となっている会費負担や出席義務のハードルを下げた支部の結成で、ライオンズの継承を目指した。結成に当たっては、新たな視点による新たな事業展開、若い世代のライフ世代にあった運営、活動を通じた自己の成長の3点を軸に据えた。中里信之支部会長は「小さな支部だが各自がライオンズ会員として強い自覚を持っている。自分たちに出来ることは何かを考え、身の丈に合った奉仕活動をしていきたい」と抱負を述べた。

香川県・高松西ライオンズクラブす馬（ま）いる支部は、ミニチュアホースによるアニマル・セラピーの活動に特化している。平賀美和支部会長が馬との触れ合いにより長期療養患者や身体及び知的障害を持つ子どもたちを笑顔にする活動を説明した。こうした具体的な実例の発表を受けて、クラブ支部の可能性を実感するフォーラムとなった。（取材／河村智子）

CLUB REPORT クラブ・リポート

331-C地区

北海道・苫小牧中央ライオンズクラブ

特別支援学級の子どもたちと牧場体験

9月26日、苫小牧中央ライオンズクラブ（水野早重会長／58人）は夕張郡長沼町のハイジ牧場で、特別支援学級の子どもたちと合同見学旅行を実施した。この事業は1986年から毎年行っている。特別支援学級の子どもたちにとって、動物に触れ合えるのは貴重な経験だ。

特別支援学級に対する教育に携わる事業がしたい。その思いから始まったこの事業も25年目を迎えた。同じゾーンの早来ライオンズクラブに所属するライオン金川幹司が、ハイジ牧場の創業者であり会長だということもあって、牧場からは多大な協力をしてもらっている。とはいえ、天候ばかりはどうしようもない。今まで何度か、雨天で中止になって

●投稿要領：
アクティビティ、例会など、クラブの活動を具体的に。700字程度。写真を添付。
ライオン誌ウェブマガジンのオンライン投稿か、Eメールまたは郵送で。
送付先は57ページ下。

乗馬体験で最初は怖がっていた子も1周する頃には笑顔になる（上）
昼食後の交流会ではじゃんけん大会。負けた人が勝った人の後ろに付いていくため、最後は長い列に（下）

いる。年に一度のせっかくの機会が雨天でなくなってしまうのは忍びないと考えたメンバーは代替案を企画。それが、札幌ドームでのレクリエーションだ。予算も限られているため、2カ所押さえることはなかなか難しい。だが、今年は企画の趣旨を説明するなど交渉を重ねた結果、札幌ドームが快諾。晴天時もキャンセル料は支払わなくていいということで同意してくれた。こうして雨天時でも中止することなく、実施出来る運びとなった。当日は気持ちのいい晴天。振替は必要なくなったが、代替企画が出来たのは大きな前進だ。

開会式の会長あいさつなどは子どもたち向けに短くまとめてあり、軽快な話し振りで子どもたちの気分を盛り上げるのに一役買っていた。

子どもたちは五つの班に分かれ、乗馬や迷路、餌やりを体験していった。どの班の子どもたちも楽しげに声を上げている。メンバーも輪に加わり、子どもたちや先生方と一緒に笑い合う。餌やりでは牛の長い舌に思わずびっくりするシーンも。

昼食後のレクリエーションにはメンバーも参加。童心に帰ったように笑顔で子どもたちと遊び、一体となってアクティビティを実施していた。

閉会式では子どもたちがメンバーに手作りのメダルを贈呈。心のこもったプレゼントにメンバーはうれしそうな顔だった。

（取材／井原一樹　撮影／関根則夫）

最後は子どもたちからライオンズのメンバーへ手製のメダルのプレゼント。心のこもったお返しに皆にんまりしていた

334-D地区

石川県・野々市ライオンズクラブ

「原点回帰　地域に笑顔を！」夏休み親子ラジオ教室

野々市ライオンズクラブ（26人）は8月18日、夏休み親子ラジオ教室を開催した。今年度のスローガン「原点回帰　地域に笑顔を！」の下、子どもたちとの触れ合いに重点を置いた今年度のメーン・アクティビティである。

　年度当初から「子どもたちと一緒に工作をしよう！」とのアイデアはあったが、スマホやテレビゲームに慣れ親しんでいる現代っ子たちが、単なる工作に興味を持ってくれるだろうか？と思案していた。そんな折、偶然にもウェブ上で傘ラジオ工作のサイトを見つけた。この傘ラジオは電池を使わず、傘やアルミホイルなどの日用品を利用して製作する。考案者である東京工業高等専門学校の小池清之教授にアイデアとテキストの使用許諾をお願いしたところ、快諾頂き、更に当地のAMラジオの周波数に合わせた傘ラジオの改造方法までご指導頂けた。また、原理や理屈も学んでもらいたいとの思いから市の教育委員会に講師のお願いをしたところ、理科教諭の経験もお持ちの先生を紹介頂き、当日には電池が無くてもラジオが聴ける仕組みから実際の作業説明まで子どもたちに教えることが出来た。

　メンバー全員でアクティビティを盛り上げたいと思い、予備試作会も実施した。そのため、当日は参加した親子に対してメンバーが丁寧にサポートをすることが出来た。そのかいもあってか、全ての子どもが自作のラジオによる視聴に成功した。また、我々も目を輝かせている子どもたちに接することで、ライオンズクラブの活動の尊さを改めて実感した。（会長／下川孝）

330-A地区

東京ピース ライオンズクラブ

インターネットを通じて豪雨被災地への支援

7月28日、「これまでに経験したことのないような大雨」と気象庁が表現した山口島根豪雨が発生した。山口市では1時間当たり143ミリという想像を絶する大豪雨になり、非常に大きな被害が出ているという情報を受け、東京ピース ライオンズクラブ（阿部かな子会長／54人）は行動を開始した。

　当クラブは6月に結成式を終えたばかり。だが、情報収集を行い、被災地では今何が必要とされているのか、8月1日にはフェイスブックを通じて336・D地区から「とにかく今はタオルが欲しい」との要請を受けた。ネット時代ならではの素早い情報提供に感謝しつつ、メンバーに報告した。

　物資をクラブでまとめるとどうしても1日のタイムラグが生じてしまう。現地では一刻も早く物資を必要とするであろうと阿部会長が判断し、各自直接現地に宛てて発送をした。

　結果、8月3日までの時点で、5千枚を超えるタオルや、ぞうきん、ブランケット、軍手、ビニールゴミ袋、マスク、アルコール除菌タオルなどを被災地に送ることが出来た。復旧に向けて当クラブの支援物資が少しでもお役に立てば幸いだ。

　当クラブでは、月2回の例会のうち1回をネット会議で行うと定めており、メンバー間の連絡も主にSNSを利用して行っている。このことがメンバーへの素早い情報提供を可能にしたと言えるかもしれない。

　9月3日にチャーター・ナイトを迎えたばかりの東京ピース ライオンズクラブの理念は、「社会奉仕のために、額に汗して活動するクラブ」だ。54人のメンバーで、これからも社会奉仕に精進して参りたい。

（幹事／山下規介）

336-C地区

広島県・三原本郷ライオンズクラブ

沼田川いかだ下り＆クリーンアップコンテスト

8月18日、三原本郷ライオンズクラブ（20人）は沼田川いかだ下り&クリーンアップコンテストを開催した。沼田川は広島県三原市本郷地区をJR山陽本線に沿って流れる川。そこを手作りのいかだでゴミを拾いながら川下りする。24回目を迎える今年は地元の企業を始め地域住民など12チームがいかだで川を下った。応援者を含めると約１２０人が参加するなど盛況だった。

この川下りは危険を伴うため、開会式では市長や来賓の方々から祝辞を頂いた後、安全維持の説明をし、安全を祈願した。

ライフジャケットを装着した参加者は自分のチームが作成した自慢のいかだで川の中へ。事故防止のため、先頭と後方に当クラブのメンバー2人ずつが監視員として乗り込んだ。こうして水深約20～１００センチの浅瀬を約2キロ下る。その間、参加者は他チームと交流を図りながら熱心にゴミを拾っていた。

閉会式ではいかだの出来栄えと回収したゴミの量を比べ、1位～3位までを決定し、表彰。参加者全員に記念品も配った。優勝チームは「環境保全に対する意識が高まった。来年もぜひ参加したい」と語ってくれた。

また今回も身体に障害を持つ団体のチームが参加。彼らが保護者と熱心にゴミを拾う姿が他の参加者に感動を与えたようだ。

とても和やかな雰囲気の中、全員けがなく無事終了。反省点もあるが、市民を交えた事業が出来たことは大きな成果だと思う。これを機に今後少しでも市民の環境意識が高まることを期待したい。（会長／津田豊三　環境保全委員長／薬本勝美）

332-B地区

岩手県・江釣子ライオンズクラブ

無人の駅舎 江釣子駅清掃

7月2日、江釣子ライオンズクラブ（柏山栄治会長／32人）はJR北上線江釣子駅の周辺清掃を行った。江釣子駅は北上駅が管理している無人駅である。当クラブはこの清掃活動を１９８７年の結成以来、26年間継続事業として行ってきた。毎年、江釣子小学校児童、JROB会、社会福祉協議会江釣子支部の職員等と一緒に行っている。

江釣子駅と言えば、普段は一日に停車する電車は10往復程度、乗り降りも数人程度という寂しい感じの駅舎だが、年に一度のこの清掃日は、子どもたちの歓声が響き、とてもにぎやかな時間となる。

この事業を実施していて驚かされるのは小学校の子どもたちが指示をされなくても率先してトイレに向かい、黙々と掃除を始めること。トイレ、駅舎の窓ガラス、子どもたちががんばったところは皆ピカピカだ。大人たちは、主に周辺の高枝剪定や草刈りを行う。

このように地域の方と一緒に汗を流し、コミュニケーションがとれる場は、なかなか得られない貴重な体験だと感じている。普段は利用する機会がない私でも、この活動を通して江釣子駅への愛着がわいてきた。

大掃除は年に一度だが、普段から地域住民や子どもたちが大切にしている江釣子駅は奇麗な状態を保ち続けている。

私が小学校に入学した当時から、歴代の先輩ライオンが継承してきたこの活動を絶やすことなく続け、地域の方々が大切にしている江釣子駅への思いを共有し続けたいと思う。（幹事／菊地哲）

330-A地区

東京武蔵野ライオンズクラブ

近隣の留学生を招いて浴衣でのお月見例会

9月28日、東京武蔵野ライオンズクラブ（後藤登会長／47人）は留学生交流「お月見例会」を実施した。集まったのは近隣にある亜細亜大学、武蔵野大学、東京外国語大学、国際基督教大学に通う留学生たち約80人。中国や台湾、韓国の留学生が多いが、中にはジンバブエやスリランカなどからの留学生もいた。

会場となった場所には鉄骨で櫓が組まれ、芝生の上には丸テーブルと椅子が並ぶ。テーブルの脇では炭火と鉄板が用意されていた。まるで公園かどこかと錯覚する光景。だが、これはL髙橋勇の家だ。

周囲に留学生を受け入れている大学が多いこともあり、東京武蔵野ライオンズクラブでは以前から留学生支援の事業を実施してきた。元々はYEを発展させる形で奨学金を渡していた。その後、論文大会を行い、それが弁論大会に変化した。この弁論大会を運営している頃、問題になったのが、応募してくれる留学生の少なさ。そこで人を集めるためにバーベキューを実施することになったのがお月見例会の始まりだ。現在は留学生をバスでどこかへ連れて行くバス旅行とほぼ交互にこのお月見例会を実施している。

例会に参加した女子留学生には浴衣の着付けを体験してもらう。男子は残念ながらレンタルのハッピだ。女子留学生は着てきた服の上から浴衣を着る。踊りの師匠でもあるL藤間仁章がマイクを通じて浴衣の着方をレクチャー。初めての体験で戸惑う女子留学生たちもメンバーの助けを借りつつ、全員無事に着付けを完了した。ここで着た浴衣はそのまま女子留学生にプレゼント。そのため、お月見例会は例年、非常に人気が高い。今年も定員を上回る応募があったため、泣く泣く何人かは断らざるをえなかったという。

事業の目的は日本文化の体験と留学生同士の交流だ。近くにある大学同士とは言え、なかなか交流する機会もないため、お月見例会を機に知り合ってほしいという考えがある。また、日本文化の体験として盆踊りと花火を実施。盆踊りではメンバーが輪の中に入り、振りを見せながら踊るため、見よう見まねで留学生たちも踊り始める。何回か同じ曲を流せば、留学生たち

もだんだん覚えていく。最後は自分なりにアレンジしたり、友達と目線を合わせて踊ったりと大いに楽しんでいた。

お月見例会の最後を飾るのは花火。留学生は配られた手持ち花火に順番に点火していく。わずか数十秒の火花に夢中になり、スマートフォンやタブレットで写真を撮り合っていた。クラブでは噴出花火も用意。高さ2㍍ほどまで吹き上がる火花に歓声が上がっていた。そんな楽しげな留学生の姿を見て、メンバーたちもうれしそうだった。

（取材／井原一樹　撮影／内田明人）

336-B地区

岡山後楽ライオンズクラブ

モンゴルの子どもに 中古眼鏡を贈呈

8月1日、岡山後楽ライオンズクラブ（佐野芳康会長／42人）のメンバー9人がモンゴルを訪問し、ウランバートル市の眼鏡店で子どもたちに眼鏡を贈呈した。

この事業は奈義勝北ライオンズクラブとの合同事業として始めたものだ。その後、336・B地区保健福祉委員会に協力をお願いし、地区内の各クラブに声を掛けて頂いた。結果、33クラブから中古眼鏡が届いた。その他、学校、医療機関、眼鏡店、一般の方々からの協力があり、合計約2500個の中古眼鏡が集まった。

当クラブでは訪問の半年前から眼鏡のフレームを送っているため、既に300人以上の子どもたちが眼鏡を手にしている。贈呈式には20人ほどの子どもたちとその父兄が参加してくれた。式典では民族衣装を着た子どもたちが琴の演奏や、歌の独唱で私たちを楽しませてくれた。

今回の事業では、モンゴル眼科医協会や日本へ留学中のモンゴル人学生、元留学生、眼鏡店シティ・オプティックのエルデンバット社長、眼科医ゲルレー先生など数多くの方の協力を得た。本当に感謝している。

眼鏡店には弱視の子どもを見つけるため、田舎の学校や身体障害者センターなどを回って検査をしてもらった。また、店内でもPRをしてくれた。

子どもたちはレンズの度の合った眼鏡を使用することによってきっと勉学に励んでくれることだろう。今後も500人の弱視の子どもたちに眼鏡を贈る予定だ。日本とモンゴルとの良い友好関係がいつまでも続くよう強く願ってやまない。

（PR委員長／清水直樹）

330-C地区

埼玉県・大宮北ライオンズクラブ

36回目となる 少年少女球技大会の開催

9月1日、大宮北ライオンズクラブ（根岸昌樹会長／31人）が主催する第36回少年少女球技大会が、開催された。

この球技大会は、青少年健全育成・体位向上・非行化防止を目的として、1978年に第1回目を開催した。当時は大宮市子供連合会のソフトボール大会各支部大会予選で敗れた2位の16チームを対象に行った。

90年からは、女子のポートボール大会も併催。現在はポートボールではなく、ミニバスケットボールの大会となっている。

大会当日は猛暑にもかかわらず、当クラブ・メンバーや大会役員、小学生20チームと、保護者も合わせて400人余りが集まった。

午前9時にはソフトボール4面、ミニバスケットボール2面を使っての戦いが開始。各グラウンドでは保護者や子どもたちの大きな声が飛びかった。

午後2時からは決勝戦。その間、空いたグラウンドを使って、ソフトボール3位のチームと当クラブ・メンバーのチーム（平均年齢55歳）との交流試合も行った。勝利したのはもちろん、子どもたちだった。

閉会式では、優勝チームには優勝旗が、そして3位までのチームにはメダルと賞状が授与された。受賞した子どもたちは満面の笑みを浮かべ、大喜びをしており、とても印象深かった。

大会終了後には、子供会連合会の役員と反省会を実施。子どもたちが毎年楽しみにしているという声も聞け、今回の反省と共に、次年度第37回につなげたいと改めて強く思った。（会員指導力・PR委員長／篠原正俊）

337-B地区

大分県・九重ライオンズクラブ

40余年続く早朝奉仕活動

九重ライオンズクラブ（佐藤茂喜会長／41人）は結成した1961年から毎月第2日曜日に早朝奉仕活動を実施している。

当クラブは大分県南西部、標高約360メートルという比較的高地に位置している九重町を中心として活動している。冬は雪が降り、路面が凍てつく。そんな環境ながら多少の支障もありつつ、休むことなく早朝奉仕活動を行ってきた。改めて、よく続いたものだとしみじみ思う。

活動は町内を4地区に分けて輪番で行っている。朝7時から2時間程度の活動だが、主に国道や県道、町道のゴミ拾いをして回る。町の人口は減っているが、皮肉なことにゴミは増え続けている。リサイクルなど処理に関する環境整備はされているものの、日本列島には物があふれ、ポイ捨てや不法投棄などを平気でする不届き者が後を絶たないのも現実である。

この事業にはライオン・レディーの皆さんが喜んで参加してくれる。これは大変ありがたいことだ。

いつの日か「ごみゼロ」の町になることを願いながら活動を続けていきたいと考えている。この活動はアクティビティの一環としてやりがいもあり、好評な事業であるため、継続していきたい。

最後に九重町について少し。くじゅう連山のふもとには四季折々に彩られる飯田高原があり、その谷間には2006年に開通した「日本一の『夢』大吊り橋」がある。橋の上からは「日本の滝百選」にも選ばれた「震動の滝」を始め、雄大な自然の景色が見られる。一度は訪れる価値があると思う。

（幹事／小幡憲一）

334-D地区

富山県・八尾婦中ライオンズクラブ

和紙とガラスを使った風鈴制作体験

写真：北日本新聞社提供

8月21日、八尾婦中ライオンズクラブ（28人）は、認証45周年記念事業として「八尾和紙を使ったガラスの風鈴制作体験」を実施した。近年、富山市は特産化を目指し、ガラス工芸作品の若手作家の育成支援に力を注いでいる。そこでガラス工芸制作体験を通して、子どもたちに地域や古里に対する自信と誇りを持ってもらう目的で企画した。

また、全国的にも有名で評価の高い「八尾和紙」とガラスで風鈴を作り、「伝統と新産業の融和」というコンセプトの下、体験をしてもらおうと考えた。そこで富山市立八尾小学校の児童を招待して行うことにした。

当日は、同校の5、6年生29人と桐田哲也校長他2人の教員にも参加して頂き、昨年秋に新築された富山市西金屋の富山ガラス工房第二工房で実施。子どもたちは事前に自分たちで決めた形や色合いなどのデザインをもとにスタッフから指導を受けながら「世界に一つしかない自分だけのオリジナル風鈴づくり」に挑んだ。風鈴は吹きざおを使い高温で真っ赤になったガラスを膨らませて作成する。真夏の、しかも高温の炉辺での暑い作業となったが、制作が進むにつれ子どもたちの表情には真剣さと充実感があふれており、改めてこの事業を実施して良かったと強く感じた。

作品は後日、当クラブ役員が学校にお届けし、子どもたちの手元には始業式の日に届いた。桐田校長からは、「完成品に触れ、子どもたちはオンリーワンの自分の作品にとても満足していた」と後日談を頂いた。

（会長／宮前宏司）

331-A地区

北海道・恵庭ライオンズクラブ

復興支援・渡辺貞夫 Jazz Live Concert in ENIWA

恵庭ライオンズクラブ（鶴田力会長／73人）は8月25日、「渡辺貞夫 Jazz Live Concert in ENIWA」を実施した。これは地域活性化と地元市民に音楽を楽しんで頂く機会を提供すると共に、東日本大震災の被災者支援を目的に計画したものだ。ホールの820席は満席となった。

当日は札幌の中学生21人で構成するジャズスクールクラブSJFが耳になじんだ名曲の数々をフレッシュに演奏。喝采を浴びていた。その後は、渡辺貞夫さん率いる「Sapporo Jazz Ambitious 2nd」が総勢18人による演奏を披露。渡辺貞夫さんは指揮者としてバンドを引き立てながらブルース、バラード調の楽曲を熱演。大人のバンドライブに会場は熱気に包まれた。

アンコールの最後は、渡辺貞夫さんがサックスのソロ演奏で「私のすべての愛」を披露。美しく温かい音色で観衆を魅了した。

本コンサートは、当クラブを主管に、恵庭ジャズクラブ、島松夢創館倶楽部が実行委員会を組織、恵庭市教育委員会が後援して4月から計画・運営してきたもの。チケットは前売りで完売するほどの人気であった。

当クラブでは、震災により恵庭市内に避難している55人をこのコンサートに招待、楽しいひと時を過ごしてもらった。また、このコンサートは東北震災チャリーティー・コンサートとして行い、会場では約17万円が集まった。これと8月4日に出店した「しままつ鳴子まつり」の収益金と当クラブの事業費を併せた約30万円を東北被災避難者の支援金として恵庭市長を通じて寄贈した。

（幹事／大野孝一）

335-D地区

兵庫県・小野ひまわりライオンズクラブ

福祉施設でこころの交流会 日本舞踊とベル演奏で参加

8月10日、小野ひまわりライオンズクラブ（貝沼和代会長／29人）は介護施設さわらびの「さわらび夏祭り」に日本舞踊とベル演奏で参加した。これは当クラブが3月7日に行った慰問で利用者さんと意気投合し、お誘いを頂いたことがきっかけだ。

当日は利用者男女50人が集まり、踊りのスペースがとりにくいほど。新舞踊、日本舞踊を披露すると、皆さん一緒に手を振ったり、感動してくださったり。安来節の動きには笑顔で声を掛けてくれるなど盛り上がった。

「お祭りマンボ」を演奏した時は手拍子と歌が会場に響き、「高校三年生」では全員がリズムをとり、青春時代に戻ったかのように大声で歌うなど、大盛況だった。

ラストの「ふるさと」を合唱中、それまで静かにベッドで聴かれていた方が、急にオーオーと手を上げながら歌い始められた。手で鳴らしたかったベルが、声にならなかった歌が、一筋の涙と共に自然に体からあふれ出たようだった。1時間ほどの演奏時間はあっという間に過ぎ、温かい拍手を頂いた。

「音にこころをのせて」「心と心のキャッチボールをしよう」を目指して練習してきた9年の歳月は、一瞬にして実を結び、大いなる感動を頂いた。

福祉施設への訪問、他クラブとの交流、小野地域町づくり協議会主催のクリスマス・コンサート出演などで踊りやベルを披露していく予定だ。今後も地域の皆様との触れ合いを大切に、当クラブのアクティビティとして地道に継続していく。

（幹事／山口ひとみ）

331-C地区

北海道・倶知安ライオンズクラブ

赤ちゃんライオンがやってきた!!

　9月3日、倶知安ライオンズクラブ(49人)は青少年育成事業「ふれあい移動動物園」を開催した。

　地域社会を陰で支えている女性、特に小さな子を持つお母さんが子どもの笑顔を見られる事業として考えた。子どもの笑顔がお母さんを笑顔にし、お母さんの笑顔がお父さんを元気付け、地域社会での活力となることを願ってこの事業を実施した。

　実施に際し、3週間前からチラシやポスターを配布。前日は設営用資材の積み込み、現地測量を行った。当日朝7時からの設営ではメンバーのチームワークの良さで見事予定時間に終了することが出来た。開場後は子どもたちをサポートした。子どもたちは大型リクガメの背に乗り、フクロウや鷹にうっとり。小さな子どももウサギやモルモットと追いかけっこしたり、ヘビやオオトカゲに恐る恐る手を伸ばしたり。そして、赤ちゃんライオンが登場すると、「オムツしてる!」、「肉球が大きいね」と大盛り上がり。

　当日は予想を大幅に上回る合計2473人が来場。動物もライオン(メンバー)もクタクタだったが、子どもたちの笑顔に釣られてメンバー全員の顔はほころんでいた。他にも、参加したお母さんやおばあさんから感謝の言葉を頂くなど、実施して良かったと実感した一日だった。

　メンバーの知力・体力・チームワークですてきな一日を過ごすことが出来、私も幸せな気持ちでいっぱいとなった。奉仕をする側もされる側も幸せになる、それが原点なのかもしれないと感じた。

（会長／坂口亜子）

336-D地区

山口県・宇部ライオンズクラブ

日本ジャンボリー会場で初の例会

　7月31日から8月8日にかけて、山口県山口市阿知須きらら浜で第16回日本ジャンボリーが開催された。日本ジャンボリーとは4年に一度開催されるボーイスカウト国内最大のイベントで、今回は国内及びアジア太平洋地域を中心に世界53カ国から約1万4千人のボーイスカウトが集まり、さまざまなプログラムや交流を行った。

　8月2日、宇部ライオンズクラブ(48人)は8月度第1例会をこのジャンボリー会場で行った。当日は夕方からジャンボリー会場を見学し、定刻である午後7時に例会を始めた。ゲストにボーイスカウト日本連盟・佐野常務理事をお迎えし、ごあいさつを頂いた。

　またこの例会には昨年5月に結成した日本スカウトライオンズから9人が参加。総勢50人を超す例会となった。日本スカウトライオンズとはスカウト運動を積極的に支援することを目的に結成したもので、ボーイスカウト活動に関係の深いメンバー44人で活動中の団体だ。日本スカウトライオンズ副会長である東京大森ライオンズクラブのライオン吉田謙による「ライオンズとスカウト活動に共通する、若いメンバーとの触れ合いが楽しくてたまらない」との生き生きしたスピーチがとても印象的だった。

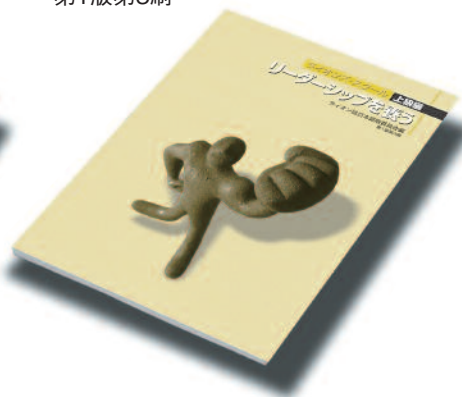
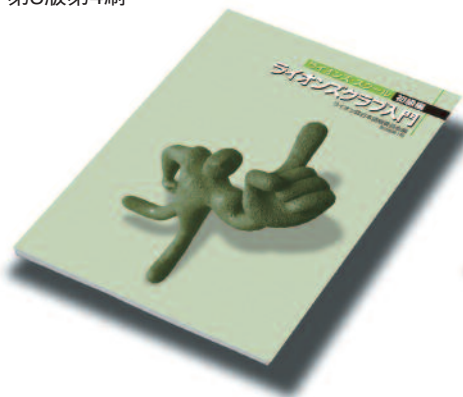
　例会後は200人を収容出来る大テントに移動して、県内高校生がアイデアを出して作ったジャンボリー弁当を食べ、2年後に同じく山口で行われる第23回世界スカウトジャンボリーでの再会を約束して、解散した。

　今回の例会開催に際してはご協力頂いたボーイスカウト日本連盟に大変感謝している。

（会長／金重泰夫）

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズスクール・シリーズ

初級編・**ライオンズクラブ入門**
第3版第4刷

入会したての新会員を対象に、これだけは知っておきたいライオンズクラブの基礎知識をまとめた。併せて「ライオンズ用語集」も収録。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

中級編・**クラブ運営の基礎知識**
第3版第3刷

クラブ運営の基本を分かりやすく解説。知識を確認したり、セミナーや研修会などでグループ・ディスカッションに利用出来るワークシート付。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

上級編・**リーダーシップを養う**
第1版第5刷

国際協会の総合的リーダシップ育成プログラムを基に編集。地区役員研修会などの副読本に、またクラブ会長や地区役員の指導力育成に最適。
A4判 64ページ 1部400円・送料実費

※ライオンズスクール・シリーズはいずれも50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引＝100～499部350円／500部以上300円

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名・クラブ名・お名前・ご住所・お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書・振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階 ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオンズスクール・シリーズ　注文書

●ライオンズスクール初級編『ライオンズクラブ入門』……………… 部
●ライオンズスクール中級編『クラブ運営の基礎知識』……………… 部
●ライオンズスクール上級編『リーダーシップを養う』……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

●獅子吼（ししく）
①仏が説法するのを、獅子が吼えて百獣を恐れさせる威力に例えていう語。
②大いに熱弁をふるうこと。（広辞苑）
●投稿要領：
会員及び家族によるエッセー、提言など。1,600字程度

ライオンズクエスト事業を終えて

松本　茂宏（兵庫県・姫路広陵）

8月27、28日に当クラブ5回目となるライオンズクエスト（以下ＬＱ）事業を行った。事業を終えたこの機に、改めて原点に戻った気持ちで、ＬＱについて文章にまとめてみた。

〈ライオンズクエストとは〉

青少年にライフスキル（生きる力）を身に付けさせることを目的としたプログラムである。青少年が、日常生活で遭遇するさまざまな問題や困難に対応するための能力を育て、マイナス行動の誘惑に打ち勝てるよう指導する。

〈なぜ必要か〉

少子化、テレビゲーム、塾通いなどにより両親や年長、年少児との接触が減少、人間関係が希薄化するに伴い、生活の知恵やコツなどを伝承する機会が極めて少なくなっている。「より良く生きるために必要な技術的能力」をきちんと整理、体系化し、理論化して、確かな形成を図ったものがＬＱである。このプログラムは、飲酒、喫煙、薬物乱用、いじめ、不登校、暴力、早期の性交と若年妊娠など、さまざまな問題や困難に対処する上で有効だと言われている。ＬＱを普及させ、子どもたちがライフスキルを身に付けられれば、それは幸福な人生の基礎となる。

ＬＱはＬＣＩＦが優先的に推進している青少年育成事業だ。これを各ライオンズクラブが本当の意味で理解し、継続して実施していくに当たり、次の点がポイントになると思う。

①国・県・市（教育委員会含む）の理解が重要。335‐Ｄ地区では宮崎正己初代地区ライオンズクエスト委員長の説明により理解を得た。

②教師用ワークショップ（ＷＳ）の講師は青少年育成支援フォーラムから派遣されるが、人数が少ないため、予定を立てる際は余裕を持って進める。

③ＷＳ開催場所は施設を借りるより、導入予定の学校で実施する方が良い。

④ＷＳ費用は教材費、講師費用（旅費交通費含）のみで実施出来るようにし、節減を図る（弁当、飲み物等は各自持参）。

⑤校長を含め、ＷＳを受講した先生が必ず模擬授業を実施するよう促す。ライオンズ会員もこれを見学することによりＬＱに対する理解が深まる。

最後に、ＬＱで教えるライフスキルについて考えたい。

昔は親から子へ伝えられたり、または他者の良い点をまねたり、年配者や友達などから学んだりして身に付けたものが、近年は社会の多様化につれ難しくなってきている。個を大切にするあまり、人とのつながりをわずらわしいと感じてしまう人が増えているのではないか。核家族化も問題である。

子どもたちが日常の多くの時間を過ごす学校でライフスキルを教えることは、この上ない社会勉強である。また、彼らがライフスキルを身に付け、それを家庭や地域で実行すれば、親や周りの人々も変わっていくと信じる。

青少年育成とは、すぐには芽が出ないが、近い将来に大輪の花を咲かせる地道な事業だと思う。他の事業と大きく異なる点だ。

ライフスキルとは初めから持ち合わせている能力ではなく、習得するものだと思う。誰もが学習や経験を繰り返し生活に生かしていくことで、身に付くものだと信じている。

（ライオンズクエスト委員長）

ハンブルク国際大会後のエジプト紀行

小林 一馬（岐阜あかつき）

ドイツ・ハンブルクで開催された国際大会の後、当クラブのライオン栗本孝平と一緒にドバイ経由でエジプト・カイロまで足を延ばした。

もちろん、大会での山田實紘国際第2副会長候補への投票が我々の使命であったが、渡欧の経験がない私には、30代最後のビッグイベントであり、「せっかくだから他の国も訪れてみよう！」ということになったのだ。

私の部屋には世界中の行きたい国の写真が飾ってあり、エジプトはまさにその一つ。中学生の頃は考古学者になるのが夢だった。特に関心が強いのはエジプト文明、中でもピラミッドが何のために作られたかに興味がある。私の見解は、一般的に言われている王の墓や輪廻転生を祈願するものではなく、イニシエーション（通過儀礼）のための、肉体と意識の分離による宇宙的英知の獲得を目的とした施設だというものだ。

エジプト到着の翌日、待ちに待ったクフ王のピラミッドの入り口での感想は、とにかくデカイ！　一つの石が平均2・5トン、大きなものは肩の高さくらいある。入口付近にいる自称「ガイド」のお爺さんに連れられ、かがまずには通れないほど狭い上昇通路を登った。息苦しく、圧迫感でめまいがする。通路を登りきると、テレビで何度も見たことのある「せり出し工法」の大回廊に到着。天井に近付くほど両側の壁の幅が狭くなる独特の形状は、まるで上空に吸い上げられていくかのような錯覚に陥る。

大回廊を登りきった先にあるのは「王の間」である。幅5メートル、奥行き10メートル、高さ5メートルの厳かな空間は、音の反響が独特で、特別な部屋であると感じずにはいられない。部屋の脇にある「石棺」は、もともとは部屋の中央に設置され、イニシエーションで用いられていたとのことだった。

その後、私たちは、またもや自称ガイドの強面のおじさんの口車に乗せられ、スフィンクスや河岸神殿などを巡った。チップをせびられたが、案内はちゃんとしてくれた。神殿付近に点在する立ち入り禁止の洞穴は、やはりイニシエーションで使われていたとのことだ。そしてスフィンクスの足元にある幾つもの扉は、全てのピラミッドにつながっていると言っていた。

私たちはギザを離れ、カイロ市中心部にあるエジプト考古学博物館へと向かった。博物館前の通りの両脇には50台は超えるであろう戦車がズラッと並び、迷彩服の兵隊や、警察の特殊部隊らしい黒尽くめの戦闘服を着た人たちが群がっていた。戦車の上では兵士たちが機関銃に手を掛けながらコーランを読み上げていた。いったいどんな気持ちで読んでいるのだろう。街の人々からは貧富の差の激しさが見てとれた。

博物館内では、巨大な石像やキャップストーンが我々を歓迎してくれた。ミイラや壁画、神々の彫刻、鼻のついたスフィンクス、輝く宝飾品、太陽の船、玉座や黄金のベッド、ツタンカーメンのマスク……。とても数時間では見きれない。私たちは早歩きになり、小走りになり、最後は走って館内を回った。特に印象に残った一つ目は、チェスや西洋双六の原型のようなゲーム盤と、多面体のサイコロである。古代から人はゲームを楽しんでいたのだ。

ピラミッド建設中に休日を賭けて勝負したりしていたのだろうか。

二つ目は、日本にもある「見ざる、言わざる、聞かざる」の像だ。帰国後調べたところ、三猿の起源はなんとエジプトらしい。しかも世界中に三猿の痕跡があるのだ！

こうして私たちの旅は無事終了した。かに見えたが、カイロ空港で親切な空港職員にゲートまで案内され、チップを要求され、有り金を全てふんだくられるという目にあった。

9日間の旅を終えて帰ってきた週末の名古屋駅は、酔っ払い、コスプレやダンスをする若者、喧騒とさまざまな食べ物の臭いであふれていた。二人が最初に口をついた言葉。

「日本って平和だね～」

世の中には、食べ物が満足に食べられない人、暖を取る服や毛布がない人、壊したくない自然を壊さざるを得ない人、したくもない戦いをしなければならない人たちがいる。自然との調和がとれた先進国ドイツ、世界の富豪が集まる原油国ドバイ、格差社会と民主化にあえぐエジプト。人種も宗教も文化も産業も格差も違うこれらの国への旅は、最終的に、外から見た「日本」を気付かせてくれた。

皆が少しずつ「他」のことを考え、協力し助け合えれば、もっとすばらしい世の中に変えることが出来るだろう。奉仕とは、報酬を求めず、見返りを要求せず、無私の労働を行うこと。「We Serve Now!」。私たちはまさに今、奉仕の在り方を考え、自分たちで出来ることを、実践すべきなのだ。

更に過熱したライオニズムを胸に、始まったばかりの今期も、自分たちに出来る精一杯のアクティビティを行っていくつもりである。

国際大会と私、135万分の1

田中 文太郎（東京世田谷）

私は2012年5月に、同級生の紹介で入会しました。幼少の頃から祖母の仕事の関係でライオンズクラブに接する機会も多く、ありがたいご縁を頂いてきました。

当クラブは結成50周年を迎えますが、世代交代がうまく行われ、老壮青のバランスの良いクラブです。今ではライオンズの垣根を超えて上智大学学生と交流があり、学生にも積極的にアクティビティに参加して頂いております。

私の妻はフィリピン人、マニラ（ホスト）ライオンズクラブの会員です。私が入会して間も無く、釜山国際大会が開かれました。ぜひ妻と2人で国際大会へ参加したいと申し入れました。そのお話を聞いて頂いた先輩ライオンのご尽力で、クラブは快く私を送り出してくれました（残念ながら妻は都合で参加出来なかったのですが）。

今回のハンブルク大会へは私は代議員として、クラブ・メンバー2人と共に参加しました。山田實紘国際第2副会長が誕生する記念すべき大会でした。

大会会場は東京、複合地区、全国、アジア、全世界のメンバーが集いすごい数……。街はライオンズ・カラーでいっぱいです。戸惑いと驚きの中、先輩ライオンの誘導でいろいろな方と知り合うことが出来ました。

チームJAPANとして開催国の街を行進するインターナショナル・パレードは、心が一つになれる、自分たちへ向けたアクティビティだと思います。

会期中に行なわれるさまざまなセミナーはとても勉強になり最高です。普段会えないプロトコールの高い方々と話も出来ます。今回参加した会員増強セミナーは「そうそう」と共感出来る内容で、新クラブや支部を作ってみたくなりました。思わず熱くなって、セミナー終了後、プレゼンターを務められた方に話し掛け、当クラブの自慢をしてしまいました。

クラブ内で上手くいかない時もあります。でも一歩外へ出れば、いろいろな方が声を掛けてくださる。それが、クラブを辞めずにいる力になるどころか、仲間を増やすためにライオンズを紹介したくなってきます。

何と言っても国際大会での一番の収穫は、とにかくたくさんの国、世代、人種を超えた友達が出来たこと。貴重な経験を得たことです。ライオンズ・ライフだけではなく、人生において、ビジネスにおいて、これに勝る財産はありません。

国際大会に参加することで、135万人の中の一人であることを実感出来ます。ライオンズに対する理解も格段に深まります。クラブでは若いライオンへ参加を促す積極的サポートが必要だと思います。

これまでの体験を通じ、以下を実行することが重要だと感じました。

①積極的に国際大会等へ参加する。
②ライオンズ・スピリットを守り、チャレンジする。
③もっともっとライオンズクラブを地域にアピールしていく。
④フェイスブックなどのSNSを活用し、他クラブと交流する。
⑤ライオン誌、ホームページ等で情報を仕入れ、クラブ内で共有する。

ライオンズには、この時代に必要なものがあります。私は会員であることを誇りに思い、一つひとつの体験に感動し、感謝しています。そして東京世田谷ライオンズクラブが大好きです！

福岡フォーラムにはクラブ・メンバー10人で参加しました。もちろん今年のシンガポール・フォーラムにも参加します。

このすばらしい機会をぜひ共有しましょう！　お会いしましょう！

協和レオクラブ、今までとこれから

後藤 安（茨城県・協和）

青少年健全育成はライオンズの永遠のテーマです。

協和ライオンズクラブは結成2年後の1979年5月に協和レオクラブをスポンサーし、今年で35年目になります。当時、当地区には多くのレオクラブが結成され、交流事業も多数ありましたが、現在、333・E地区で活動しているのは協和レオクラブだけになってしまいました。

今年7月30日にはキャビネットの恒例事業であるレオ夏季研修会が、協和レオクラブのみで開催されました。ここ数年はこうした状況です。

協和レオクラブは、協和ライオンズクラブ初代会長である故ライオン海老澤末徳の、青少年健全育成に対する並々ならぬ情熱に会員一同が共鳴し、子弟を中心とした男子8人、女子27人で結成されました。それだけにライオンたちのレオに対する関心も強く、活動も活発でした。

しかしその後、レオの年齢上昇により退会者が増加するなど、結成10年後には解散の危機に直面してしまったのです。当時の親クラブ会長(ライオン)谷島昭平は「青少年育成の灯は消してはならないし、レオは未来のライオンにつながるもので、レオの育成が出来ないようではライオンズの将来もない」と強く訴えました。(ライオン)谷島は自らレオ顧問に就任し、その改革に着手したのです。残っているレオの意思を確認したところ、在籍を希望したのは4人という結果でした。レオ育成に関心の強いライオンと共に、教育長を訪ねて協力を要請したり、地区内の小中学校に奉仕活動を通して青少年健全育成に協力を求めました。

更にクラブの同志と議論を重ねた結果、ある知恵が浮かびました。レオ活動には母親の協力が欠かせないことに気付き、レオの母親による家族会議を結成したのです。母親の送迎協力により、レオクラブの例会と理事会の開催時間を昼間から夜に変更。これで部活動による制約も解消され出席率も向上、活動も活発になりました。

組織面では、親クラブと家族会議から2人ずつレオ顧問を選出。レオクラブ三役の母親は家族会議の三役となり、親子が共同で責任を果たすことになりました。レオクラブの運営はレオ三役が中心ですが、家族とレオ顧問がバックアップする体制になったのです。

この改革により、レオ・メンバーは徐々に増え、活動の幅も広がりました。

90年からはYCEプログラムにも積極的に取り組み、これまでに派遣生14人、受入生10人を数えます。これらの活動に対して91年度から連続4回、年次大会でクラブ優秀賞を受賞することが出来ました。また、02年度には飯村仁美レオが国際会長からベストレオ賞を授与されました。改革を共に支えたクラブの同志は、歴代のレオ委員長としてレオクラブ運営に携わり続けています。

本年度協和レオ(クラブ)は会員数27人。アルファ・レオ（12～17歳）9人、オメガ・レオ（18～30歳）18人と年齢構成は高めです。少子化の影響と同時に、低学年から部活、塾、習い事等、活動の選択肢が多様化。中学生は部活動や進学準備で参加が極端に制約されることが多く、高校生以上はレオ活動への関与が難しいのが現状です。

しかしながら、小学生だったレオが社会人、あるいは若い母親として立派に成長した姿に接する時には、一緒に斉唱した「レオクラブの歌」が子どもたちを育んできたのだと、改めて事業の大切さを感じます。

現在のレオクラブの年間事業計画では夏季研修会、福祉施設訪問、国際交流事業参加、遊び場遊具点検、赤い羽根街頭募金、クリスマスの集い、懇親バーベキューなどがあり、ライオンズとこだま支部（旧ライオネス）から多くのメンバーが参加して支援しています。先輩たちが築いてきた伝統を守りながら、当地区で唯一のレオクラブの活性化に更なる工夫をしていかなければならないと考えています。（クラブ会長）

おすすめのippin

長崎県大村市

長崎寿古珈琲

長崎空港に近い大村市寿古(すこ)町の観光コーヒー園「長崎スコーコーヒーパーク」では200本のコーヒーの木が育っている。生産から焙煎まで一貫して行っており、オリジナルの100％寿古珈琲(コーヒー)（1杯千円）は園内のレストランで飲むことが出来る。

創業以来、浅煎りにこだわってきたコーヒーは、やや酸味のある軽い味わいで、スターバックスなど深煎りに慣れた人は、物足りなさを感じるかもしれない。しかし、香りは非常に高く、焙煎豆をひき始めると、店内には早くも豊かな香りが広がる。コーヒーをいれた後の香りも格別で、寿古珈琲に使う波佐見焼の特製カップには、上部に穴の空いたふたが付いており、香りをかげるようになっている。コーヒーの香りをかいだ時の脳波を調べると、リラクゼーションの指標であるアルファ波が多く出ていることが分かっている。仕事や勉強で疲れた時は、コーヒー・アロマでリフレッシュしてみてはいかが。

●「長崎スコーコーヒーパーク」長崎県大村市寿古町813-1

ふるさと探訪

福岡県 北九州市

文／砂山幹博　写真／田中勝明

新しくて、どこか懐かしい港町

北九州
KITA-KYUSHU

「不夜城」と化した港町

本州と九州とを隔てる関門海峡は、最も狭い部分で可航幅がたったの500メートル。潮流の流速も最速時で9ノット（毎秒4・6メートル）を超えるため、昔から航海の難所であった。それでも、瀬戸内海と日本海という二つの海を結ぶ海峡とあって、現在も1日約600隻もの船舶が往来する海上交通の要衝である。

この関門海峡に面した北九州市が「九州の玄関口」になり得たのは、港湾と鉄道という二大インフラをいち早く整備したからだ。背後に筑豊炭田を控えていたことで、1889年に門司港が石炭などを扱う特別輸出港に指定されると、その2年後には門司港を起点とする九州鉄道（国鉄の前身）が開通。炭鉱と港の間を石炭列車が往来し、門司港は貿易港としての地位を確立した。岸壁には隙間がないほど船があふれ、外国船がひっきりなしに港を出入りした。

港の将来性に目を付けた金融資本の進出も相次いだ。大商社や銀行が先を争って門司に支店を出し、門司港の目抜き通りにはこうした商社や銀行の洋風建築社屋が軒を連ねた。

福岡県 北九州市

1963年に旧5市（門司・小倉・若松・八幡・戸畑）が対等合併して誕生し、三大都市圏以外で初めて政令指定都市となった。市の北部は日本海に、東側は瀬戸内海に面する。南側には山地が多く、山間部一帯は北九州国定公園に指定されている。1901年に操業を開始した八幡製鉄所を契機に、鉄鋼・化学・窯業・電機などの工場が集積する北九州工業地帯を形成。現在でも、工業は市の重要な産業である。
総面積／488.78平方キロ
総人口／968,233人（2013年9月1日現在）

写真右の道路橋は、関門海峡をまたぐ関門橋（関門大橋）。橋のこちらが北九州市で向こう側が山口県下関市。左端に見える港が門司港。昭和初期まで神戸、横浜と並ぶ国内三大貿易港として大いに繁栄した

門司港レトロ地区の中心部で一際目立つれんが造りの建物は、1912年に建設された北九州市旧門司税関として使われたもの

１８９８年には九州で初めてとなる日本銀行の支店も門司に出店している。鉄道の走る海岸沿いには工業地帯が出来、門司は産業都市に発展。街は活気にあふれ、さながら不夜城の様相を呈していたという。

　ところが、終戦と共に海外貿易が縮小し、エネルギー源の主体も石炭から石油へ。更には、１９５８年の関門国道トンネルの開通で、海運と鉄道に頼っていた物流がトラック輸送に取って代わり、港の需要が低迷していった。

　かつてのにぎわいは失われたものの、華やかなりし頃をしのばせる、れんが造りの古い建物はその場に残った。近年、北九州市では、門司港エリアに点在するこうした歴史的建造物を、新しい都市機能と組み合わせる街作りを進めてきた。１９９５年から「門司港レトロ」として新た

1958年に開通した、海峡を歩いて横断出来る世界唯一の海底トンネル。距離は780メートル、対岸の下関市までは歩いて約15分

な歴史を刻み始めた港町エリアは、往時の面影の残る都市型観光地として年間200万人が訪れる人気スポットとなっている。

門司発祥の伝統芸

「門司港レトロ」の中でもシンボルとも言える存在が、JR門司港駅だ。1914年に建設されたネオ・ルネッサンス様式の洋風木造建築物で、鉄道の駅舎としては初めて国の重要文化財に指定された。あの東京駅の駅舎よりも10カ月早く完成している建物である。駅舎なので、鉄道で門司港を訪れれば必ず目にすることが出来るのだが、残念ながら現在は大規模保存修理工事のまっただ中。建物の骨組みを残して解体され、傷んだ部材の修理と補強を行った上で、再び組み立てられる。建物のデザインはそのままに、美しく生まれ変わった駅舎を見ることが出来るのは、工事完了予定の2018年3月以降となる。

門司港駅から港方面へ歩を進めると、週末には威勢の良いこんな口上を耳にするかもしれない。

「春よ三月春雨に、弥生のお空に桜散る　奥州仙台伊達公が、何故にバナちゃんにほれなんだ　バナちゃんの因縁聞かそうか　生まれは台湾台中の、阿里山麓の片田舎」

軽快な口上から始まる実演が、門司港名物にして、ここが発祥の地であるバナナの叩き売りだ。

バナナが日本に輸入されたのは1903年頃。台湾から神戸に持ち込まれた。神戸に運ぶ過程で傷んだり、熟れ過ぎたバナナはいち早く売りさばく必要があった。そこで陸揚げ港であった門司港で、露天商らが独特の口上を述べながら客を集めてはバナナを売ったのが叩き売りの始まりだ。当時、甘くておいしいバナナは高級品。安く手に入るチャンスとあって、門司の庶民にとっては大きな楽しみだったようだ。

昨今、バナナは安価になり、珍しいものでもなくなって、叩き売りは廃れた。しかし、その伝統芸たる啖呵を後世に残そうと保存会が組織され、継承に努めている。

門司郵便局電話課庁舎として1924年に建設された門司初の鉄筋コンクリートの建造物。現在は電話機などを展示する博物館となっている。北九州門司ライオンズクラブが事務局を構えるのもこの建物

抹茶生大福は、創業80年の和菓子店で生まれた門司土産の新定番。八女市星野村の抹茶入り生クリームと丹波大納言の粒あんを、餅でくるんだ和洋折衷のスイーツだ。2008年に全国菓子大博覧会で名誉総裁賞を受賞し、知名度は全国区に（撮影協力：和菓子なごし）

戦争で焼けてなくなった公設市場の跡地に、バラック建ての闇市が立ったのが現在の中央市場の始まり。当時から営業を続ける店と並び、新しく職人の工房などが出来、にぎわいを取り戻しつつある

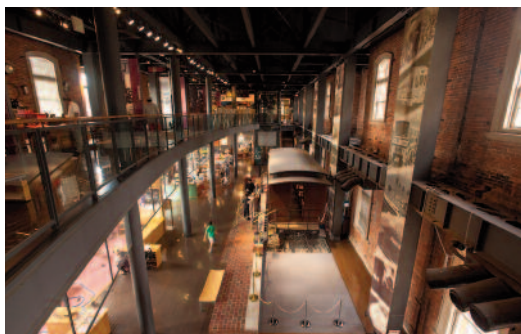
ご飯にカレーとチーズをのせてオーブンで焼いた「焼きカレー」は門司港が発祥の地。レトロ地区にも、のぼりが数多くはためいている（撮影協力：陽のあたる場所）

50周年を迎えた百万都市

門司港レトロのある門司エリア以外にも、北九州市内にはまだまだ見どころが豊富にある。

その筆頭は、江戸時代に小倉藩小笠原氏の城下町として栄えた小倉だ。新幹線の停車駅でもあるＪＲ小倉駅を中心に、北九州最大の繁華街が広がる、今も昔も商業の中心地である。

戸畑・八幡地区は、１９０１年に官営の八幡製鉄所が出来て以来、北九州工業地帯の中核を担う工業都市。筑豊炭田で産出された石炭の積出港として栄えたのは若松地区だ。現在、こうした工業地帯にある大規模工場の夜景見学がブームとなっている。ライトアップされたタービンやボイラー、タンクなどが発する光が海面に映り込む。幻想的な未来都市のような光景は、昼間には決して見ることの出来ない情景である。

北九州市を始め、室蘭市（北海道）や川崎市（神奈川県）、四日市市（三重県）、周南市（山口県）などの自治体は、こうした工場夜景を観光資源として捉え、観光客誘致に取り組んでいる。ちなみに門司・小倉・戸畑・八幡・若松の旧五市が合併して出来た現在の北九州市は、今年で市制50周年を迎えた。そんな記念すべき年ということもあり、本年11月には北九州市で全国工場夜景サミットが開催される。

1891年に建築された赤れんが造りの初代九州鉄道本社社屋を転用し、2003年にオープンした九州鉄道記念館。鉄道ファン垂涎の貴重なお宝が多数展示されている

▼取材協力クラブ

北九州門司ライオンズクラブ（金本善立会長／21人）＝１９５８年９月２日結成／スポンサー：北九州ライオンズクラブ／毎年８月13日、関門海峡の両岸で実施される関門海峡花火大会終了後にメンバー総出で一斉清掃奉仕を行っている。１１０万人以上の人出でにぎわうイベントとあってゴミも相当な量になるため、リジョンを超えて他クラブにも協力を仰ぐという大々的な活動となっている。

読者から――9月号

■市民参加を促進させるべき

「獅子吼」を読んで考えさせられた。「交流」はほとんどのクラブが抱える共通のテーマで、我がクラブでも同様の課題に直面している。高齢化が進み事業がマンネリ化してしまうクラブや、会員減少に悩んでいるところもある。活路を見いだすために、合同アクティビティや特別例会などを企画する。しかし、奉仕の根源は心の提供であり、地域に認められることが重要のはず。内輪の意思統一は大切だが、外輪と理解を深め価値を共有し、市民参加を促進させることが大切ではないかと感じる。「獅子吼」は、こういった課題を考える良いきっかけになる。

山形県・酒田ライオンズクラブ●山口龍二

■献血奉仕の参考になる

「THEME：大人の社会科見学・献血編」は血液製剤が出来るまでの詳しい過程は知らなかったので、大変参考になりました。説明だけでなく画像も大きく分かりやすく感じました。最新の献血ルームが至れり尽くせりなのには驚きました。今後の献血奉仕の際に大変参考になると感じました。また、クラブ・リポートは他のクラブがどのような活動をしているのか大変参考になります。

静岡県・芝川ライオンズクラブ●深澤正樹

■女性会員の増加で視野と活動が広がる

「国際会長メッセージ」を読み、女性会員の必要性に共感が持てた。当クラブでは、会員数46人のうち20人が女性会員であり、そのほとんどが夫人である。クラブ内に女性が増えることにより、女性目線での発想はもとより、男性会員も女性のシビアさに学ぶなど、少しずつではあるが、視野と活動の広がりを見せている。「家族に理解されない活動は、真のライオンズ活動では無い！」が当クラブのモットーである。

岩手県・室根ライオンズクラブ●小岩文雄

■誰かの心に永遠に生きる奉仕

「Close up」を読んで、マザー・テレサの「どれだけ多くのことをするのではなく、どれだけ愛を込めるかです」という言葉を思い出した。一つひとつの奉仕を行うに際し、過去に助けられた感謝の心と愛を誰かのために捧げることが出来たなら、より深い奉仕に辿り着くことが出来るだろう。一人を救う力こそ、多くの人を救う力になる。そうした真心を私たちがいつも持ち合せるならば、どれほど大いなる偉業を成す力になるだろうか。偉業とは誰かの目に触れることではなく、「誰かの心に永遠に生き続ける奉仕」のことだ。それが迫ってくる記事であった。

広島フェニックスライオンズクラブ●藤野能子

●ライオン誌事務所来訪者芳名録

9・10 東京新宿 山浦晟暉
9・10 北海道函館グリーン 後藤忍
9・20 東京江戸川 原田貞機
9・20 東京三田 土橋正富
9・24 東京三田 土橋正富

読者プレゼント

■宮城県塩竈の藻塩を10人に

「被災地のライオンズは今」で紹介した宮城県塩竈市の藻塩と藻塩フラワーソルト（製造元：合同会社顔晴れ塩竈）をセットで10人

の読者にプレゼントします。塩の聖地と呼ばれる塩竈の海藻と海水から時間を掛けて作り上げられた塩で、パスタや肉料理などに使用するのがおすすめです。

プレゼントをご希望の方は、はがきに「藻塩」と明記し、氏名、クラブ名、住所、電話番号をご記入の上、ライオン誌プレゼント係までご応募ください。本誌へのご意見、ご感想もお書き添えください。締切は11月末日。応募多数の場合は抽選となります。

【宛先】〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌事務所
＊オンライン応募はライオン誌ウェブマガジン（www.thelion-mag.jp）の「ライオン誌日本語版」→「プレゼント応募」から。

〈56ページクイズの解答〉第1問=a.／第2問=c.／第3問=b.／第4問=a.／第5問=b.

もう一度読みたい「あの記事」

●1965年6月号

『ライオン誌』バックナンバーから、読者の皆さんにぜひもう一度読んで頂きたい記事をピックアップ。スペースの関係上、多少の編集を加えている場合があります。

「白い雀の話」

樋口正規（長崎県・島原ライオンズクラブ）

小学生の頃、教科書で白い雀の話を読んだ記憶が今日なお頭の隅に残っている。

それはある大地主の跡取り息子の話である。

彼は父親を失って、その跡を継いだが、生来怠け者の朝寝坊で少しも働かないため家運は傾き、広い田畑も年々減りゆくばかりであった。

そこで、ある知恵者がその息子に、「毎朝早く起きて、庭や家の周り、付近の田畑を見回ってごらんなさい。あなたは必ず白い雀を発見するだろう。その雀はたくさんの金銀財宝を産み出す力を持つ宝の鳥である。あなたはこの雀を捕らえるとただちに大金持ちになり、失った田畑も取り戻して再び大地主になれるのだ。明日から毎朝早く起きて、白い雀を探して捕らえなさい」と忠告した。怠け者の息子は朝早く起きるのは辛いが、そのような不思議な宝の鳥が手に入るならば、たちまち大金持ちになれる。これはどうしても明日から早起きして、庭や家屋敷、田畑の周りを探して歩こうと思い立った。

翌日から、早起きして白い雀を探して歩いたが、白い雀はなかなか見当たらなかった。

しかし毎日毎日早朝から見回っている間に、不思議な事件に出会った。それは、小作人たちが蔵から米俵をコソコソと持ち出していたのである。ある時は女中が家の大切な品物を近所の若者と盗み出していた。牛がどこかへ連れ去られるのを見た。鶏や卵も密かに持ち出されていた。なるほど、これでは財産は減る一方である。また、主人が朝寝坊なのを幸いに、使用人が皆怠けて、働かないのであった。

怠け者の息子は初めて己の非を悟ったのである。それから息子は毎朝早くから働き、使用人もこれに倣って働き、不正なことをする者もなくなって、家は次第に栄えたのである。息子はついに白い雀を探すことは出来なかったが、彼が心の内に捕らえた物が実は「白い雀」だったのである。

この物語を考え直しつつ、私はライオン誌について考えた。ライオン誌についてはいろいろ批判もある。確かに、週刊誌や低級雑誌のような興味はない。少しばかり説教じみてると言って、嫌がられる点もある。しかし、私は1ページから最終ページまで、努力してなるべく読み通すことにしている。

それは何とかして立派なライオンになりたい念願からである。読みゆく間に、ライオンズ精神の精髄とも言うべき片言隻語に触れることがある。アクティビティについての貴重なヒントを得ることがある。会の運営についてのアイデアや、無言のアドバイスを受けるのである。

しかし、これらの貴い文字は何ページにあるか。それは1冊を通読せねば得られない。そこで私は「白い雀」を探し出すつもりで、ライオン誌を通読しておれば、いつしか不識不知の間に真のライオンと呼ばるる人にまで成長するのではあるまいかと思うし、またかくありたいと願う。もっとも読んで得たところのものを実行に移す努力が、同時に最も大切なことではあるが。

私のライオン誌上に求めんとする「白い雀」、それはライオニズムである。

ライオン誌例会のススメ
―次の例会ですぐ使える情報

何でも日本一

■いくつ読める? 難読クラブ名

各ライオンズクラブの名称には所在地の地名を付けることが決められている。全国のクラブ名の中には、いったい何と読むの?と首をかしげてしまう地名がある。そこで今回、ライオン誌事務所のスタッフが、各複合地区で最も難読度が高いと思われるクラブ名を一つずつ選んでみた。

▼331:北海道・音更▼332:宮城県・小牛田▼330:埼玉県・加須▼333:千葉県・酒々井▼334:長野県・東御▼335:兵庫県・八鹿▼336:愛媛県・松前▼337:長崎県・東彼杵

難読地名が多いことで知られるのは北海道。「音更」の他にも訓子府(くんねっぷ)、新冠(にいかっぷ)など難しいクラブ名がたくさんあり、一つに絞るのに苦労した。

各クラブ名の読み方は▼331:おとふけ▼332:こごた▼330:かぞ▼333:しすい▼334:とみ▼335:ようか▼336:まさき▼337:ひがしそのぎ。

この日・この月

11月はライオンズクラブ国際協会の「**糖尿病教育月間**」。また、**11月14日**は国連の「**世界糖尿病デー**」に定められている。ライオンズによる糖尿病教育活動にはウォーキングを通じて糖尿病への認識を高めるSTRIDES(ストライズ)イベントや、視力検査などの活動がある。

日本糖尿病学会と日本糖尿病協会が作る世界糖尿病デー実行委員会(www.wddj.jp)によれば、日本の糖尿病患者数は総人口の10%を超える推定約1870万人(06年糖尿病実態調査)。また40歳以上の3人に1人が糖尿病または糖尿病予備軍というデータ(06年国民健康・栄養調査)もある。会員の皆さんはしっかり健康管理をされているものと思うが、これを機にクラブ例会で糖尿病チェックを行ってみては?

今月号の記事から

THEME「地域の魅力発信」(5~19ページ)では、地域活性化につながるアクティビティや会員の活動を紹介しました。各クラブには地域の歴史や文化などに精通した会員がいるはず。そうした人材を生かして、地域活性化事業のアイデアを話し合ってみてはどうでしょう。

★ライオン誌例会のノウハウを収めた「ライオン誌例会 開催ガイド」は、ライオン誌ウェブマガジン(www.thelion-mag.jp)「各種書式/ロゴ」の「ライオン誌関係」のページでダウンロード出来ます。本誌バックナンバーはEブック形式で公開しておりますのでご活用ください。

クイズ de 例会

〈第1問〉国際協会のビジョン声明文。「○○社会と人道奉仕におけるグローバルリーダーを目指す」

a. 地域　b. 国際　c. 地球

〈第2問〉「ゆるキャラ」ブームで活躍著しい地域のPRマスコット。大人気、熊本県のマスコットの名前は?

a. くまヤン　b. くまリン
c. くまモン

〈第3問〉町おこしに生かされる庶民的なご当地グルメのことを、何グルメと呼ぶ?

a. A級　b. B級　c. C級

〈第4問〉「THEME:地域の魅力発信」で紹介した香川県・小豆島ライオンズクラブが資金調達源にもしている島の特産品は?

a. オリーブ　b. 醤油
c. うどん

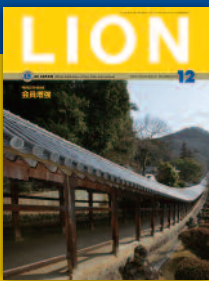
〈第5問〉同じく、広島佐東ライオンズクラブが復活させた地域の名所は?

a. 松林　b. 梅林　c. 栗林

★回答は54ページ下

次号予告

THEME 会員増強

会員の増強に成功したクラブのノウハウや、ライオンズの奉仕を拡大する新たな手法として注目されているクラブ支部の結成の事例を紹介する他、昨年度ライオンズの仲間に加わった20代の会員4人にそれぞれのクラブ・ライフを語ってもらう。

編集室

愛読されるライオン誌を目指して

今期、ライオン誌日本語版委員会の委員を拝命しました。ライオン誌の編集、発行に、より近い形で携われることを大変光栄に感じております。

以前、ライオン誌編集長を務められた菊地伸治元国際理事から、「ライオン誌は我々ライオンのバイブル」だと教えられました。国際協会の動向がいち早く伝えられ、よく読んでみますと多種多彩な記事が並んでいます。

私は新会員の勧誘の際にはライオン誌と地区誌を持参します。我々の活動を最も分かりやすく伝えてくれるからです。また、クラブ会長や幹事に就任した時は、事業の参考にするために他クラブのアクティビティ記事を読みあさりました。地区ガバナーの任期中は、熱心なライオンがよくライオン誌の記事を話題にすることがありました。ところが私の所属クラブではライオン誌を例会で配布していたので、情報についていけない時がありました。これを何とか改善し、仲間と記事について語り合いたいと考えて、会員個人に直接届くように手配しました。更に、地区誌をライオン誌に同梱して届けることで、より多くの会員に両誌をよく読んで頂きたいと考えました。これは地区内で非常に高く評価され、会員の間で記事が話題に上ることが以前より大幅に増えました。

10月号のこの欄でご覧頂いた通り、今期の団英男編集長は、バリー・J・パーマー国際会長のテーマ「夢を追いかけよう(Follow Your Dream)」を表現するため編集長方針に六つの項目を挙げました。読者の皆さんと「夢」を共有出来る誌面づくりを目指しております。特に私は東日本大震災を経験した地区出身の委員ですので、その報告と今後のアラートの取り組みに関する報道に努め、今一つ明確でないアラート活動の指針を示すことが出来ればと考えております。

武久一郎、清水英徳両国際理事と8人の編集委員、スタッフで皆さんに愛読される誌面づくりに精進します。ご協力をよろしくお願い申し上げます。

ライオン誌
日本語版委員
◉
佐藤義則
（宮城県・蔵王）

Official publication of Lions Clubs International

EXECUTIVE OFFICERS
President Barry J. Palmer, PO Box 200, Berowra, NSW 2081, Australia; Immediate Past President Wayne A. Madden, PO Box 208, Auburn, Indiana 46706, USA; First Vice President Joseph Preston, Dewey, Arizona, USA; Second Vice President Jitsuhiro Yamada, Gifu, Japan.

DIRECTORS
Second year directors
Benedict Ancar, Bucharest, Romania; Jaime Garcia Cepeda, Bogotá, Colombia; Jui-Tai Chang, Multiple District 300 Taiwan; Kalle Elster, Tallinn, Estonia; Stephen Michael Glass, Bridgeport, West Virginia, USA; Judith Hankom, Hampton, Iowa, USA; John A. Harper, Cheyenne, Wyoming, USA; Sangeeta Jatia, Kolkata, West Bengal, India; Sheryl May Jensen, Rotorua, New Zealand; Stacey W. Jones, Miami Gardens, Florida, USA; Dr. Tae-Young Kim, Incheon, Korea; Donal W. Knipp, Auxvasse, Missouri, USA; Sunil Kumar R., Secunderabad, India; Kenneth Persson, Vellinge, Sweden; Dr. Ichiro Takehisa, Tokushima, Japan; Dr. H. Hauser Weiler, Kilmarnock, Virginia, USA; Harvey F. Whitley, Monroe, North Carolina, USA.

First year directors
Fabio de Almeida, Guarulhos SP, Brazil; Lawrence A. "Larry" Dicus, Whittier, California USA; Roberto Fresia, ; Alexis Vincent Gomes, Pointe-Noire, Republic of Congo; Cynthia B. Gregg, Belle Vernon, Pennsylvania, USA;Byung-Gi Kim, Korea; Esther LaMothe, Jackson, Michigan, USA; Yves Léveillé, Howick, Quebec, Canada; Teresa Mann, Hong Kong, China; Raju V. Manwani, Mumbai, India; William A. McKinney, Highland, Illinois, USA; Michael Edward Molenda, Hastings, Minnesota, USA; John Pettis, Jr., Merrimac, Massachusetts, USA; Carl Robert Rettby, Neuchatel, Switzerland; Emine Oya Sebük, Istanbul, Turkey; Hidenori Shimizu, Gunma, Japan; Dr. Steven Tremaroli, Huntington, New York, USA.

Lions Clubs International Headquarters
300 W 22ND STREET OAK BROOK IL 60523-8842 USA
TEL.(630)571-5466 FAX.(630)571-8890
Web site: www.lionsclubs.org

ライオンズクラブ国際協会の公式出版物であるライオン誌は、国際理事会の認可を得て次の20カ国語で発行される－英語、スペイン語、日本語、フランス語、スウェーデン語、イタリア語、ドイツ語、フィンランド語、韓国語、ポルトガル語、オランダ語、デンマーク語、中国語、ノルウェー語、アイスランド語、トルコ語、ギリシャ語、ヒンディー語、インドネシア語、タイ語

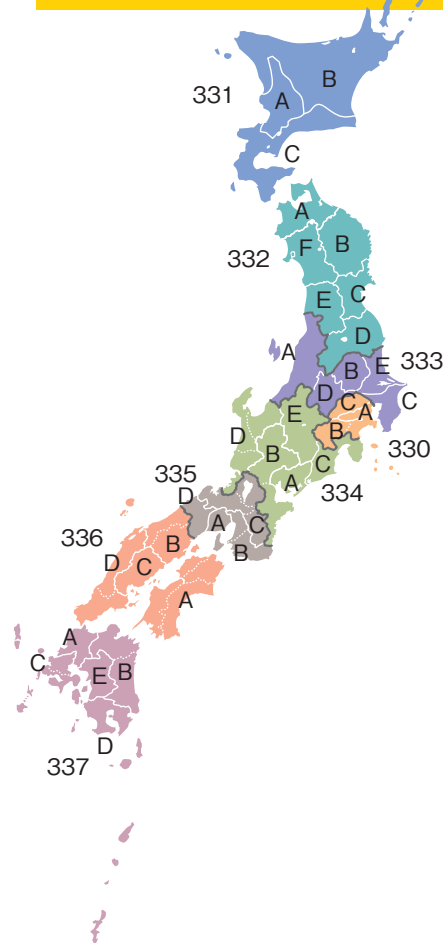
ライオン誌日本語版委員会
国際理事　武久一郎
国際理事　清水英徳
委員長　茂尾　実（331複合地区）
編集長　団　英男（335複合地区）
委員　大熊泰雄（330複合地区）
委員　佐藤義則（332複合地区）
委員　小西宗仁（333複合地区）
委員　大村行範（334複合地区）
委員　組嶽晶一（336複合地区）
委員　田崎登保（337複合地区）

ライオン誌日本語版事務所
〒104-0045 東京都中央区築地2-2-1 築地細田ビル7階
TEL.(03)3542-9571(代)　FAX.(03)3546-2630
E-mail. edit@thelion.jp
Website: www.thelion-mag.jp

日本のライオンズ

2013.9.30 eMMR ServannA報告による

地区	都道府県	クラブ数	会員数	男性会員	女性会員	期首からの増減
330-A	東京	202	4,912	4,180	732	108
330-B	神奈川·山梨·東京	170	4,712	4,098	614	82
330-C	埼玉	93	2,204	1,977	227	-1
330	計	465	11,828	10,255	1,573	189
331-A	北海道(道央)	72	2,410	2,235	175	51
331-B	北海道(道北·道東)	88	2,421	2,294	127	27
331-C	北海道(道南)	52	1,762	1,568	194	4
331	計	212	6,593	6,097	496	82
332-A	青森	66	1,924	1,610	314	74
332-B	岩手	53	2,174	1,558	616	20
332-C	宮城	74	1,556	1,255	301	9
332-D	福島	73	1,986	1,792	194	48
332-E	山形	56	1,789	1,598	191	17
332-F	秋田	48	1,338	1,049	289	10
332	計	370	10,767	8,862	1,905	178
333-A	新潟	75	2,779	2,480	299	2
333-B	栃木	53	1,392	1,045	347	23
333-C	千葉	141	3,465	2,873	592	-25
333-D	群馬	52	1,978	1,618	360	-13
333-E	茨城	80	2,858	2,562	296	29
333	計	401	12,472	10,578	1,894	16
334-A	愛知	120	5,061	4,496	565	71
334-B	岐阜·三重	82	4,292	3,265	1,027	49
334-C	静岡	82	3,103	2,965	138	43
334-D	富山·石川·福井	99	3,855	3,601	254	38
334-E	長野	52	1,967	1,741	226	36
334	計	435	18,278	16,068	2,210	237
335-A	兵庫(東)	90	2,157	1,865	292	9
335-B	大阪·和歌山	179	5,433	4,772	661	53
335-C	滋賀·京都·奈良	119	3,905	3,570	335	73
335-D	兵庫(西)	65	1,874	1,654	220	9
335	計	453	13,369	11,861	1,508	144
336-A	徳島·高知·香川·愛媛	149	5,390	4,754	636	91
336-B	鳥取·岡山	96	3,065	2,756	309	0
336-C	広島	101	3,349	3,137	212	24
336-D	島根·山口	96	3,086	2,872	214	20
336	計	442	14,890	13,519	1,371	135
337-A	福岡·長崎	115	4,493	3,900	593	50
337-B	大分·宮崎	72	2,295	2,116	179	31
337-C	佐賀·長崎	83	3,044	2,538	506	45
337-D	鹿児島·沖縄	80	2,349	2,140	209	35
337-E	熊本	58	1,566	1,405	161	34
337	計	408	13,747	12,099	1,648	195
総計		3,186	101,944	89,339	12,605	1,176
世界のライオンズの		6.9%	7.5%	8.8%	3.7%	

日本ライオンズクラブ分布図

世界のライオンズ

2013.9.30 国際協会集計

ライオンズ国または領域	208
世界のクラブ数	46,435
世界の会員数	1,355,513
※男性会員数	1,017,018
※女性会員数	338,495
期首からの増減	8,105

国	クラブ数	会員数	期首からの増減
アメリカ	11,970	335,521	-2,244
インド	6,284	229,896	4,215
韓国	2,079	79,162	905

ライオン誌日本語版出版物

ライオンズ新書／ライオンズ文庫

ライオンズ新書01 ライオンズ力を高める 新刊

ライオンズクラブの歴史や組織からクラブ運営の全般までを、分かりやすく系統的にまとめた。1983年に刊行した『ライオンズ スピリット』の後継書。

新書判
224ページ
1部500円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部450円／500部以上400円

ウィ･サーブ

日本にライオンズクラブが誕生した1952年から2002年まで、日本ライオンズ50年間の歴史。

B6判
332ページ
1部800円･送料実費

ライオンズ新書02 LCIF早分かり 新刊

ライオンズクラブ国際財団の目的やその仕組み、寄せられた献金がライオンズの人道奉仕にどのように生かされているかなど、LCIFの概要や意義をまとめた。

新書判
176ページ
1部400円･送料実費
※50部以上ご注文の場合、送料無料（ただし、急ぎの場合は実費請求）。
●大口注文割引
100～499部350円／500部以上300円

ライオニズムよ永遠に

ライオンズクラブの創設者メルビン･ジョーンズの生涯を時代と共に活写した労作。

B6判
224ページ
1部800円･送料実費

※お申し込みは下記注文書をお使いの上、郵送またはファクスでお願いします。
※電子メールの場合は、地区名･クラブ名･お名前･ご住所･お電話番号を明記し、office@thelion.jp宛てにご注文ください。
※ライオン誌ウェブマガジンからオンラインでのご注文も承っています。下記のライオンズ文庫注文フォームからどうぞ。
https://www.thelion-mag.jp/modules/inquirysp/index.php?op=2
※請求書･振込用紙は、品物に同封します。（大口注文の場合は別便で送付）

〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　ライオン誌日本語版事務所（FAX：03-3546-2630）

キリトリ線

ライオン誌日本語版出版物　注文書

- 『ライオンズ力を高める』成り立ちから組織、運営まで分かる簡単ガイド ……………… 部
- 『LCIF早分かり』世界ナンバー1 NGOの簡単ガイド ……………… 部
- 『ウィ･サーブ』日本ライオンズ半世紀の航跡 ……………… 部
- 『ライオニズムよ永遠に』メルビン･ジョーンズとその時代 ……………… 部

地区名 33 -	クラブ名	お名前（クラブで注文の場合は不要）
ご住所 〒 -		お電話番号

のぞみ福祉作業所

宮城県南三陸町の「のぞみ福祉作業所」は東日本大震災によって作業所が全壊し、利用されていた障害者の方お二人が、津波の犠牲となりました。更に、作業を受注していた町内の企業も被災したことから、震災後は全く仕事が入らない状態でした。その後、LCIF東日本大震災指定交付金の支援を受け紙すき道具を導入。現在は、利用者の方が描いた絵を使ったオリジナルの絵はがきなどの自主製品を作り、「南三陸さんさん商店街」で販売しています。

利用者が描いた、南三陸町復興の新たなシンボル「モアイ」をモチーフにしたフェイスタオルやポストカードも加わり、自主製品のラインアップは徐々に増えています

のぞみ福祉作業所
宮城県本吉郡南三陸町志津川字袖浜93-1
TEL.0226-46-5129　FAX.0226-29-6858

ライオン誌11月号
昭和33年12月19日付第三種郵便物認可　定価180円　送料実費76円
2013年(平成25年)10月20日発行　毎月1回20日発行　第56巻第5号
発行所　ライオンズクラブ国際協会ライオン誌日本語版事務所　〒104-0045　東京都中央区築地2-2-1　築地細田ビル7階　Tel 03-3542-9571
印刷所　共同印刷株式会社